

SB  
450.5  
.14  
H36x

UNIVERSITY OF ILLINOIS-URBANA  
SB450.5.14H36X C001  
HANA NO SHIORI HIROSHIMA-KEN FUTAMI-GU



3 0112 031615955

美  
王  
精  
記  
卷



UNIVERSITY OF  
ILLINOIS LIBRARY  
AT URBANA CHINESE  
ASIAN

華真





寒櫻二菊

大日本總華督

簾之間一華一席

蘊奧相傳

聽水庵春翁

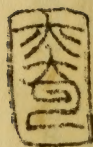


大正八年十一月十七日

花道家元立生大會華席ニ於生之



清

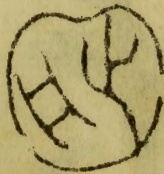


燥



癸丑移日

止舟題



東洋大學長帝國大學講師  
文學士前田慧雲殿之題字



大正六年十一月十七日

花道家元池坊日本全國高職立生大會

於華席生之



錦木二白菊

聽水庵春翁





蓮翹二金錢花

聽水庵春翁



大正五年三月十七日  
花道家元池坊例會華席ニ於生之





抑モ華道ハ聖德太子教育ノ一端トシテ、我ガ池坊祖小野妹子大臣ニ傳ヘ給ヒシ所  
ニシテ、爾來之レガ進展ト共ニ世ニ弘マリ美術中ノ白眉トシテ普ク都鄙ノ賞トハ  
ナレルナリ、宜ベナル哉其ノ眞理ヤ淵大ニシテ盡クル處ヲ知ラズ、是レニ仍テ得  
ル修養モ亦尠シトセズ、靜力ニ花ニ向ツテツラ／＼思ヘバ花ハ吾ニ向ツテ以心傳  
心シテ教ユルガ如ク諭スガ如シ、草木ヲ見テ心ヲ延ベ飛花落葉ノ風ノ前ニカ、ル  
春秋ノアハレヲ思ヒ盛者必衰ノ理ヲ示シ、中ニモ色カヘヌ松ヤ檜原ノ如キ自ラ不  
變ノ操ヲ顯ハス等皆天然タル千變萬化華心ノ現象ニシテ、既ニ花其ノモノニ崇高  
ナル趣味ヲ含蓄セリ、此ニ於テ法ヲ學デ法ヲ忘レ法ヲ忘テ法ニ合ス是レ正ニ眞心  
精一適トシテ自得ノ間自カラ宜合ノ法中ニ入ル、此ノ時多少ノ妄想悉ク消散シテ  
身心又佛神ト異ナルコトナシ、松ニ向ヘバ我レ即チ松ナリ、梅ニ向ヘバ我レ即チ  
梅ナリ、向フ所ノ萬物皆ナ我レト冥合ス此ニ無常ヲ覺リテ圓融無碍ノ妙理ニ達シ



無明ヲ斷ジテ無我清淨ノ境ニ入ル、豈哲學悟道華心ノ傳法ト云フベキニアラスヤ  
昔世尊枯華(コンバラ華)ヲ示シ、迦葉ノ微笑セシ時、正法、眼藏、涅槃、妙心ノ  
法門教ヘ外ニ傳ヘテ、广迦、迦葉ニ附屬スト云フガ如キ、或ハ周茂ノ蓮。林和ノ  
梅。淵明ノ菊、靈雲ハ桃花ヲ見ル。山谷ハ木犀ヲ臭グ。我が朝聖德太子ノ桃松ノ  
譬諭等皆一花ノ上ニシテ開悟ノ益ヲ得シゾカシ、又我が居床ノ樂ミハ安善界ノ寶  
樹、寶池モ、ココチ去ルコト遠カラス、花藏世界ニ吹ク風モ瓶ノ上ニゾ匂ヒ來ル  
廬山、湘湖ノ風景モ至ラザレバ望ミガタク、鑊樹銘池ノ絶境モ耳ニフレテ見ルコ  
ト稀ナリ、王麻結ガ綱川ノ圖モ夏涼シサチ生ルコト能ハズ、舞擧ガ草花ノ軸モ  
秋香ヲ發スル事ナシ、又庭前ニ山ヲ築キ垣内ニ泉ヲ引クモ人力ヲ煩サズシテ成ル  
事ヲ得ズ。而モ花道ハ實ニ小水尺樹ヲ以テ江山數程ノ勝槩ヲ顯ハシ、暫時頃刻ノ  
間ニ千變萬化ノ佳境ヲ催ス、恰モ僊家ノ妙術ト云フモ可ナランヤ。惟フニ此ノ道

ハ草木ノ自然ニ隨ヒ清淨無垢ノ花卉ヲ以テ三体和合ノ形ヲ示シ、之レニ加フルニ  
炭酸二素ノ利害ヲ交換シ室内ヲシテ快清ナラシム、是レ人事ノ儀則、衛生ノ要法  
ト云フベク眞理教育ノ要具ナリ、敢ヘテ斯道ヲシテ遊藝ノ如キ感アルベカラズ、蓋  
シ、太子傳授ノ主旨ニシテ斯道ヲ學ブモノ互ニ道德ヲ全フシ天理ニ隨ヒ人道ヲ明  
カニシ、敬神愛國ノ法術ヲ忘レズ、以テ宜シク國恩ニ報ゼンコトヲ期スベキナリ。  
余斯ノ道ニ有ルコト既ニ久シク、同好ノ士ト研究スルコト亦歲アリ、未ダ蘊奧ヲ  
極ムルニ至ラズト雖モ、斯道ニ熱心セル士ノ之レガ研究ニ徒ラニ日子ヲ費シ空費  
ヲ消用シ却テ高潔ナル華道ノ精神ヲ弄スルコトナキカヲ憂ヒ、專ラ意義ヲ尊重シ  
教授法ト速成法ニ苦心シ茲ニ天地ノ二卷ヲ以テ花道ノ法式ヲ著シ普ク同好者ノ參  
考ニ資セリ、幸ニシテ諸彦ノ愛用ヲ博シ今ヤ是レガ版ヲ重ヌルコト七回其ノ貢獻  
スル處ヲ多トスルト同時ニ拙慮ノ空シカラザルヲ幸甚トス、素ヨリ限りナキ自然



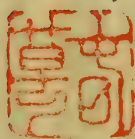
ノ草木ヲ悉ク列舉スルニ遑マアラズト雖モ之レニ則リ研究センカ無量ノ興趣自ラ  
出デ博ク之レガ應用ニ悖ラザランコトヲ信ズ、希クハ幸ニ花道家元池坊ノ門ニ入  
リ高潔ナル斯道ノ發揮ニ努メラレンコトヲ

編者識ス

大正十一年二月

大日本總華督

聽水庵春翁



# 花ノ枝折天之卷目次

## 第一章 總 論

第一 總 則 ..... 一

第二 華道ノ來歴 ..... 二

第三 華道ノ趣旨 ..... 三

第四 生花花形ノ原則(其ノ一) ..... 四

## 第二章 生方大意

第五 稽古初メノ心得 ..... 一〇

第六 草木ノ自然性 ..... 一五

第七 材料撰訂方及ビ生方 ..... 一六

## 第三章 アシラヒ

第八 アシラヒノ應用及ビ名稱 ..... 一八

第九 五本花形 ..... 一九

第十 七本花形 ..... 二二

第十一 九本花形 ..... 二四

第十二 拾壹本花形 ..... 二七

第十三 拾參本花形 ..... 三一

第十四 拾五本花形 ..... 三四

第十五 拾七本花形 ..... 三八

第十六 拾九本花形 ..... 三九

第十七 生花花形ノ原則(其ノ二) ..... 四〇

第十八 枝物ノ生方 ..... 四三

第十九 花形調挿ノ戒禁 ..... 四七

第二十 根ノ遺ヒ方 ..... 四八



第二十一 花留ノ事……………五

#### 第四章 葉 蘭

第二十二 葉蘭ノ陰陽……………五

第二十三 葉蘭水揚法及ビ五枚ノ生方……………六

第二十四 葉蘭七枚花形……………六

第二十五 葉蘭九枚ノ生方……………六

第二十六 葉蘭拾壹枚ノ生方……………六

第二十七 葉蘭拾參枚花形……………七

第二十八 葉蘭拾五枚ノ生方……………七

第二十九 生花花形ノ原則(其ノ三)……………七

#### 第五章 花道ノ禮式

第三十 床ノ間花器具ノ配置方……………七

第三十一 生法ノ大意……………七

第三十二 花道ノ心得……………八

(天之卷目次終リ)

# 第一章 總論

## 第一 總則

都テ物ヲ學バント欲スルニハ必ズ先ヅ其本末ノ道ヲ辨ヘ終始ノ理ヲ悟リ而シテ後其ノ目的ヲ達スルニアリ、古語ニ曰ク「物ニ有リ本末、業ニ有リ終始、知先後スルニテハ庶道ニ」ト花道モ亦然リ斯道ノ研究ニ先ダチ豫メ之ガ本末ノ趣旨ヲ會得シ花道ノ所以ヲ知り而シテ技術ノ練習ニ努メザルベカラズ、然ルニ遇々速成ノ道ヲ誤リ初メヨリ材料ヲ手ニシ徒ラニ花形ヲ調ヘント欲シ漸ク師ノ助力ニ依リテ花形ニ成リタリト雖モ材料ノ變ル時ハ又施スベキ術ヲ知ラズ幾回生クルモ皆初メニ等シク更ニ上達ノ兆ナカルベシ、故ニ本書「華之技折」ハ成ルベク講究ノ秩序ヲ重シ初學者ノ研究ヲシテ容易ナラシムル爲メ之レヲ三期ニ分チ天地仁ノ三卷ヲ以テ之レニ充タシ各々圖ヲ狹ミ純然タル秩序ノ下ニ講義ヲ施シタリ、即チ天之卷ニハ豫メ華道ノ意義ヲ明カニシ花形ノ原則ヲ示シ生方ノ大要ヲ述ベ以テ初進者ノ基礎ヲ養成シ千差萬別ノ花卉ニ接シ克ク之レガ調插ニ其ノ花法ヲ應用シ得ルニ速カナラシムルベク努メタリ、故ニ本書ヲ繙クニハ先ヅ其ノ註譯ヲ讀ミ圖ト對照シ理ヲ解シ意義ヲ分明ニカメ然ル後實習ニ移ルベシ、若シ只圖ノミヲ見テ花形ヲ作ラントシ天之卷ヲ措キテ地之卷ヲ繙カントスルガ如キコトアラバ、花形ノ根抵定マラズ、徒ニ無意味ニシテ形式ニ流レ枝葉ノ位置ヲ失ヒ陰陽和セズ、遂ニハ花道ノ趣味ヲモ感セズ、何等得ル所アラザルベシ、宜シク研究ノ秩序ヲ誤ルコトナク研究ノ徹底ニ努メ斯道最終ノ美ヲ完フセンコトヲ期スベキナリ。

## 第二 華道ノ來歴



華道ノ來歴ヲ訊ヌルニ、今ヨリ凡ソ三千年ノ昔、印度ノ國ニ於テ、釋迦牟尼佛、草木ノ無碍ニシテ清淨ナル發育ノ自然ニヨリテ教ヘテ説キ給フ、舍利佛曾テ一對ノ瓶ヲ造リテ廬山ノ風光ヲ象チドリ、之レヲ如來ニ獻ジタルコトアリ、釋尊大ニ歡喜シテ曰ク、此ノ廬山ハ即チ須彌山（須彌山ハ宇宙ノ全体ヲ假想的象チ造リタルモノニシテ佛説ニ曰ク須彌山ハ印度ノ南大海ノ中ニアリ、日月陰陽ニ位シ『月陰ニアリ』日月之レニヨリテ回ル十階ノ世界アリテ欲界天、色界天、無色界天ニ分チ諸天之レニヨリテ居ル其ノ高サ八萬四千由旬ナリト云フ）ノ形ヲナシタルモノニシテ、一瓶ノ花ハ一世界ナリ、即チ陰陽ニ位シ、三光ヲ象チドリ、萬物、萬法、皆ナ中ニ備ハザルハナシト、是レ華道ノ起因ニシテ實ニ創花ノ源泉タルナリ、常ニ佛前ノ瓶ニハ花枝ノ絶ユルコトナク以來佛法ト共ニ世ニ傳ハリ、我ガ日本帝國ニ於テハ、聖德太子花道ノ眞理ヲ悟リ給ヒ花法ヲ創立シ教育ノ一端トシテ、其ノ秘訣ヲ小野妹子大臣ニ傳授セラル、大臣ハ敏達天皇ノ皇胤ニシテ聖德太子ノ近臣ナリ、克ク皇室ヲ戴翼シ國事ニ盡力セラレシコト枚舉ニ遑アラズ。用明天皇ノ二年今ノ六角堂ヲ御建立アリテ、如意輪觀世音ヲ安置シ奉リ、大臣其ノ守護ノ命ヲ受ケ、入道シテ專務ト改ム、之レ則チ花道家元池坊ノ元祖ナリ、常ニ自坊ニ插花シテ天理ヲ樂シミ、花法ヲ衆人ニ授ケテ人道ヲ諭シ、人生ノ教育ニ務ム、之ヨリ代々ノ子孫ノ繼承スル所ニシテ、殊ニ十二代專慶師ハ斯道ニ堪能ニシテ、大ニ之レガ革正ニ努メ、花体ヲ立華ノ外ニ砂物、生花ノ二ツヲ創加シ、二十七代專鎮師ノ時、將軍東山義政公ヨリ池坊ヲ以テ、花道家元ノ公許ヲ得タリ、是ヨリ世ノ進歩ト共ニ發展シ、今日ノ盛大ヲ見ルニ至ル實ニ千三百有餘年ノ所ヲ經タリキ。

# 第三 華道ノ趣旨

華道ハ昔聖德太子教育ノ要具トシテ、後世ニ傳ヘ給ヒシモノナルガ、何故之ヲ以テ教育ノ材料トナルベキモノナルカ先づ初學者ノ研究セザルベカラザル所ナリ、素ヨリ華道ハ高等美術ニシテ遊藝ニアラザルコト勿論ナリ。惟フニ茶ノ道ヲ學ブ人ガ其ノ作法ノ形式ヲ知得スルニ似タレモ、其ノ眞理ヲ究ムレバ、即チ身心ヲ清肅ナラシメ器具ノ扱ヒヲ丁寧ニ清潔ヲ事トシ衛生ノ心法ニ適合スルニアリ、又柔術ガ人ヲ投グルノ目的ニアラズ、身ヲ護ルヲ以テ本領トスルガ如ク、若シ夫レ華道ガ只花ヲ挿シテ見ルノミニテ、之レガ眞理ノナキモノトセバ、趣味甚ダ輕薄ニシテ愉快モナク何等ノ價值ヲモ在セザルベシ、世尊ハ曾テ一瓶ノ花ヲ以テ、一世界ナリト賞シ其ノ意義ノ淵大ニシテ無量ナルコトヲ指摘セリ。試ミニ花ノ字ヲ四種ノ譯義ニヨリテ譯スレバ『一(淺畧譯)花ハ一切ノ美二(深秘譯)花ハ歡喜ノ意三(秘中ノ深秘譯)花ハ歡喜ノ標四(秘々中ノ深秘譯)花ハ全宇宙ヲ代表ス』即チ花ハ一切ノ物ノ美ノ頂上ヲ意味スルモノニシテ所有萬物ノ全盛ノ期ヲ花ト云ヒ何等邪意アルコトナシ、又人ニ對シ滿腔ノ祝意ヲ表スルニ珍花ヲ贈ルハ取モ直サズ花ニ歡喜ノ意ヲ含ムガ故ニシテ花ヲ見テ誰カ悅バザルモノアランヤ。而シテ世ノ中ニ生存スルモノハ悉ク此ノ全盛ト歡喜トノ標的ニ向テ進マントス、然ルニ偶之レガ標的ノ道ヲ誤リ或ハ妨グラレテ枯死スルモアリ又墮落ノ底ニ沈ムモアリト雖モ其ノ蘊奧ナル深秘ヲ究ムレバ世界ノ萬物ハ皆此ノ全盛ト歡喜即チ花ヲ中心トシテ組織セラレタルモノニシテ何等他ニ秘決アルニアラズ、是レ謂所花ハ宇宙ノ眞理の代表者タル所以ナリ、此ニ於テ知ルベシ、苟クモ花道ハ心醉ナル草木ノ自然ヲ本トシ、天地自然ノ玄理ヲ一瓶ノ花形ノ上ニ示セルモノニシテ即チ自然ヲ以テ自然ヲ象チ造クルモノナリ、自然ハ天地ノ理ニ併合シタルモノニシテ、即チ道ナリ、コレ又人ノ道ナリ、斯ノ如ク華道ハ自然ノ典型ニ則リテ道ヲ論スモノニシテ、其ノ意味殊ニ深ク盡クル事ナシ、故ニ其ノ形タル



一、枝葉皆ナ真ニ從ヒ、長短各々其ノ位置ヲ守リ、自ラ人ノ世ニ處スルノ道ヲ示セリ、是レ花法ハ天理人道ノ心術ニシテ徳ニ入ルノ門ナリ、又華道ハ一身ノ修養ヲ鼓舞スル即チ自己ヲ反省スル鑑トモ云フベク、恰モ櫻花ヲ以テ武士ヲ戒ムルガ如ク、吳竹ヲ以テ貞節ヲ訓フルガ如シ、斯ノ如ク、華道ハ優美温和ノ技術ニシテ修養ト共ニ欣喜ノ裡ニ真理ヲ自得シ邪念ヲ去リ、良心終ニ正道ニ歸ス、是レ蓋シ教育ノ要具タル事明カナリ、靜カニ花ニ向ヒ枝葉ノ長短セリ位置ヲ見テ、己レノ分限ヲ省ミ、三休(真副体)和合ノ整順タルヲ見テハ一家ノ圓滿ヲ想ヒ信義ノ道ヲ辨ユルニアリ、一家ノ圓滿ハ即チ國家富強ノ基礎タルナリ、又花卉ノ真ニ順ズルヲ見テハ、則チ國民タルモノノ克ク國法ニ從ヒ、忠君愛國ノ理ヲ悟ルニ難カラズ、是レ皆斯道ノ趣旨ニシテ、禮節ノ樞器ナリ、之ニ加フルニ衛生ノ心法ヲ具備シ、席上ニ於テ、實ニ正嚴ナル裝飾品ナリ、學ブ人常ニ研究ノ傍ラニハ精神ノ修養ニ努メ崇高ナル本旨ヲ誤ラザラシコトヲ期スベキナリ

#### 第四 生花花形ノ原則 (其ノ一)

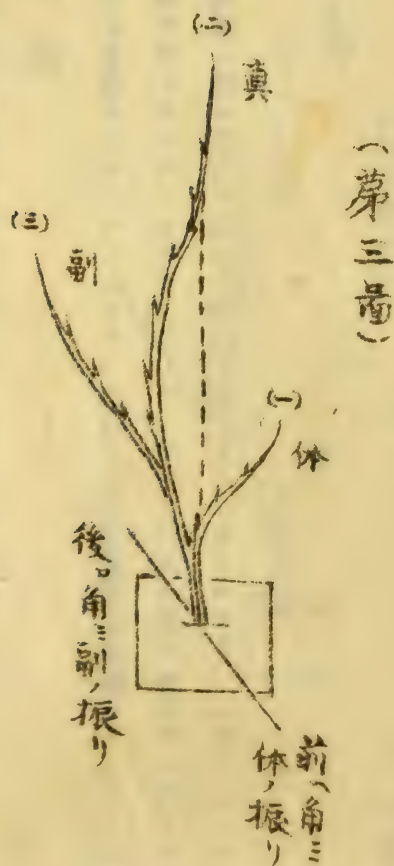
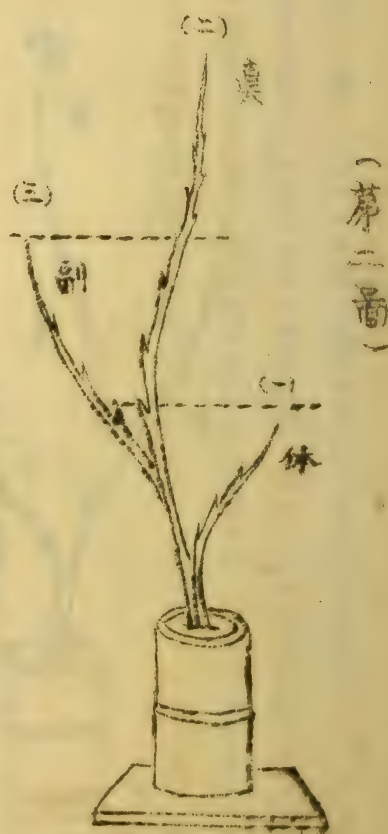
##### (一) 真 副 体

一瓶ノ花ハ真副体ト云フ三ツノモノヲ以テ調插スルモノニシテ之ヲ以テ花体ノ骨髓トナスモノナリ而シテ此三者ハ如何ナル位置ヲ保ツベキカト云フニ先ヅ真ヲリノ中央 置キ体



眞ノ前ニシテ副ハ眞ノ後ニアリ、即チ体一眞二副三ノ順序ニ花器ノ中ニ挿スナリ、(第一圖)而シテ眞副体ノ長短ハ眞ヲ以テ最長トシ、副ハ眞ノ三分ノ二ニシテ、体ハ眞ノ三分ノ一ノ割合ナリ、故ニ眞ヲ三尺トセバ副ハ二尺ニシテ体ハ一尺ノ割合ニ位置ヲ保ツナリ(第二圖参照)又花ノ形狀ハ圖ノ如ク各三者ノ幹ハ或ル曲屈ト傾斜トニヨリテ之レガ風趣ヲ顯ハスモノニシテ、即チ花器ノ口ヲ正方形ノモノトスル時ハ(第三圖)副ハ後ロ角ヨリ少々後ロニ振り眞ハ副ニ添フテ中程ニテ自ラ弧ヲ描キテ中心ニ立チ登リ、体ハ前角ニ出デ、副ト相對セシムベキナリ、

以上述べタル眞副体ノ位置長短及ビ振方ハ有ユル花形ノ基礎ニシテ即チ





定規ナリト知ルベシ、故ニ如何ニ材料ニ變化アリト雖モ此ノ方法ニ則リ其ノ調攝ニ應用スベキモノナリ。

## (二) 三光ト陰陽

三光。一瓶ノ花ハ世界ノ自然ヲ形容シ、教育ノ玄理ヲ示セルモノニシテ、萬物、萬法、皆此ノ中ニ備ハリタリト云フベシ。先ヅ此ノ眞副體ハ天地人ノ三方ヲ形チ作りタルモノニシテ、之レヲ付ケテ三光ト云フ即チ眞ハ天ニシテ體ヲ以テ地トナシ副ヲ人トナセリ、是レ天地ノ間ニ萬物ノ生ズル所以ヲ象トリタルモノニシテ、一瓶ノ花ハコノ天地人即チ眞副體ノ調和ト陰陽ノ和合ニ依リテ調フモノナルガ故ニ最モ此ニ注意セザルベカラズ。此レヲ三体和合ト云フ。

陰陽。總テ宇宙間ニ生存スルモノハ悉ク陰陽ノ備ハラザルハナク又陰陽ノ和ニ依リテ萬物ノ生ズル所以ニシテ、萬物ノ化育ハ此ノ兩者ノ消長ニヨルモノトス、花ヲ生クル材料ノ一技一葉ニ至ルマデ皆然リ、生花ニ於ケル陰トハ枝(木物)葉(葉



物)ノ裏ニシテ、自然土地ニ接面スル方ヲ云ヒ、陽トハ表ニシテ天ニ向ヒテ日光ヲ受クル方ヲ云フナリ、又一瓶ノ花ヲ大別シテ、陰陽ノ二ツニ分ツ、即チ眞ヲ中心トシテ体ノ出ヅル方ヲ陰方ト云ヒ、副ノ方ヲ陽方ト云フ、故ニ眞ハ自然幹ノ陽方ヲ副ノ方ニ向ケ体ノ方ニ陰方ヲ見、副及ビ体ハ其ノ表テ(陽)ヲ眞ニ向ハシメ陰陽相和合ノ象チヲ示ス而シテ常ニ花ヲ生クルニ、凡テ材料ノ陽(表)ヲ天ニ向ハシメ草木ノ自然性ヲ失ハザラシムルト同時ニ枝葉ノ活氣ヲ保タシムルコト肝要ナリ。

### (三) 客位 ト 主位

生花ハ床上ノ裝飾ナルコトハ勿論ナレドモ、賓客ニ對シテハ、深甚ナル敬意ヲ拂ヒ、主客ノ意義ヲ尊重シ、克ク之ガ調和ヲ維持スル等、最モ密接ナル關係ヲ有スルモノナリ、是レ既ニ花体ニ於テ、客位ト主位ノ方位ヲ具ヘ其ノ意義ヲ標榜セルモノニシテ、一瓶ノ花ハ眞ヲ以テ主弁トス、眞ハ陰方ニ位シ、副ニ向ヘリ。副ハ陽方ニアリテ眞ニ向フ、即チ花ノ陰方ハ



(花ノ陰方上座客位)



上座ニシテ、之レヲ客位ト云ヒ、陽方ハ下座ニシテ之レヲ主位ト云フ。

#### (四) 本勝手ト逆勝手

花ヲ生クルニ、本勝手ト逆勝手ノ二様ノ生方アリ、本勝手トハ花ニ向ツテ、我が右ニ体ヲ見、左ニ副ノ出デタル花形ヲ云ヒ、逆勝手ト云フハ左ニ体ヲ見、右ニ副ノ出デタルモノニシテ、本勝手ト反對ノ花形ナリ、之レヲ右花本勝手、左花逆勝手ト云フ、此ノ両者ノ花形ハ材料ノ格好ニ依リ本勝手ニ生クベキ花ト逆勝手ニ生クベキ花トアリ、或ハ床ノ位置（本床ト逆床）ニ依リテ如何様ニモ生クルモノナリ、故ニ本床ニ本勝手ノ花、逆床ニ逆勝手ノ花ヲ生ケ置ク時ハ即チ床ノ下ニ同ジク花ノ下座主位ノアル譯ナリ又此ノ両者ヲ同



(左花逆勝手)



(右花本勝手)

席(或ハ床)ニ生クル時ハ一對ノ花ナリ。

## (五) 花 形 ノ 月

一瓶ノ花ニハ陰方ノ中段(腰ノ所)ニ月ヲ抱ケル心得アルベシ、即チ月陰ニ有リトテ、幽陰ニシテ、コ、ニ花ノ眞位ヲ含蓄シ花心ノ淵源亦此ニ存スルモノナリ、月ヲ眞如ノ月ト云フ、眞如ハ神ノ心ナリ、神ノ心ハ無垢ニシテ清

淨ナリ是レ神聖ニ侵スベカラザル所

以ヲ示セリ、故ニ花ヲ生クルニモ此

ノ所ニ枝ノ眞横ニ出ズルヲ破月ト云

ヒテ最モ嫌フナリ、即チ仁心ヲ害ス

ル意味ニシテ、此ノ陰方ノ中段ハ飽

クマデ清ク、而モ忌憚アルベカラザ

ルモノナリ、此ノ清淨ナル眞意ヲ花

ヨリ我ニ又我レヨリ花ニ相通ジテ初

メテ華道ノ教育的眞理ヲ味フ、是レ

『入我々入』ノ秘決タル所以ニシテ華

人ノ最モ心スベキ事ナリ。





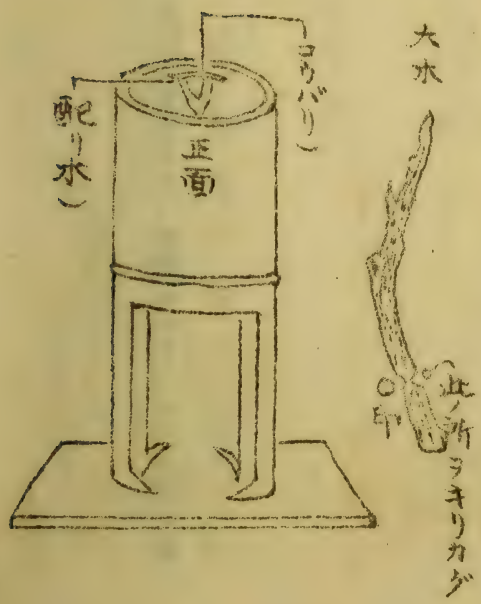
# 第二章 生方大意

## 第五 稽古始メノ心得

### (一) 配木

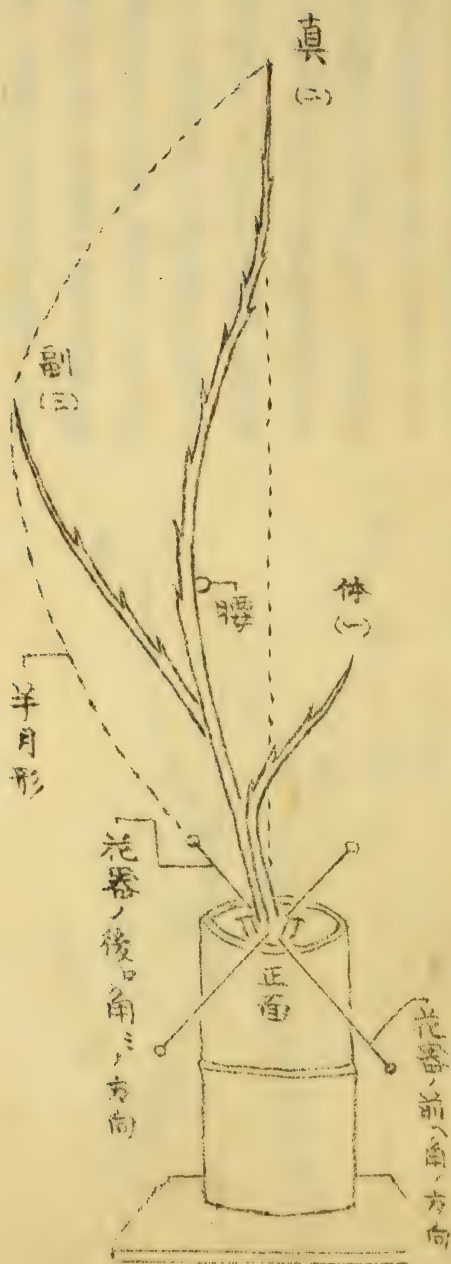
(配木) 花ヲ生クルニ先ヅ注意ヲ要スベキハ配リ木ナリ、是レヲ撰定スルニハ、第一材料ノ大小ニ依リマタノ廣狹ヲ見計ヒ生ケント欲スル數ヲ入ル、ニ足ル丈ケニ深サヲ切り、而シテ後、花器ノ口ヨリ五六分下ゲテ切り込ムベシ、妄リニマタヲ深クシ或ハ廣キモノヲ用フベカラズ、若シ古木等ノ如キ大ナル材料ヲ生ケ交ユル時ハ其ノ幹ノマタニ當ル所ヲ圖ノ如ク(○印)削リテマタニ入ルベシ(水際ニ削リ口ノ見ユルハ惡シ)花形行草ノ花ニシテ根足ノ強ク傾斜スルモノハ之レニ準ジ配木モ少ク陽方ニ傾ムクルコトヨシ。

配リ木ハ花器ノ大小ニ依リテ切り込ミ方アリ大ナレバ花器ノ口ヨリ六分小ナレバ五分下ゲテ切り込ム、配木ハ何レモ水ニ隠ル、程度ノモノ故ニ是レヲ標準トスベシ



## (二) 花ノ形狀 眞行草

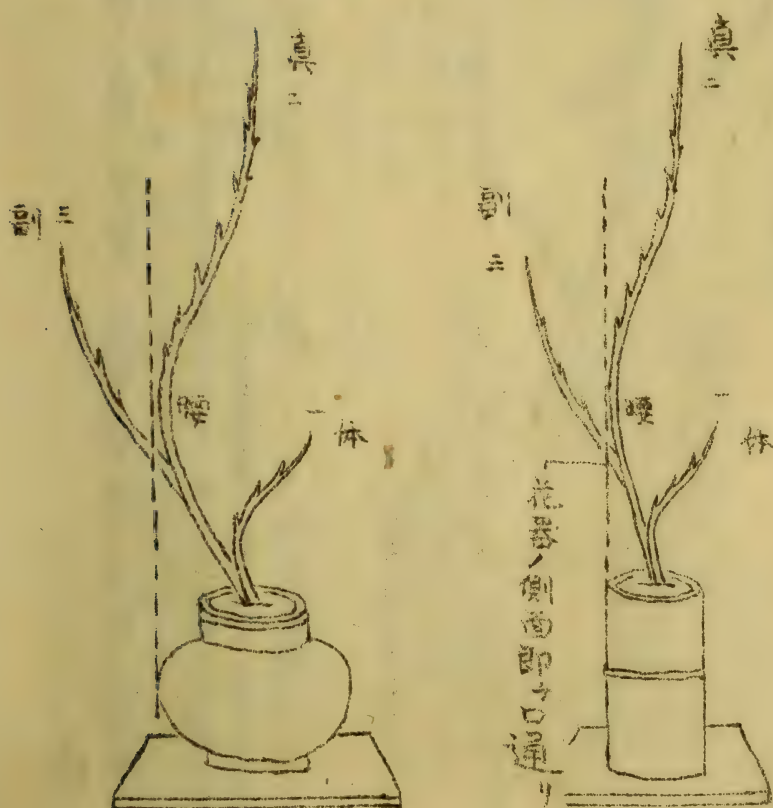
生花ノ形狀ヲ大別シテ眞行草ノ三種トス。眞ノ姿トハ材料ニ屈曲少ク、直立型ノ花ヲ云ヒ、行ノ姿トハ屈曲甚シク横張りタル花形ヲ云フ。草ノ姿トハ柱掛ケ釣生ノ如キ、眞ノ垂ル、モノ及ビ一重生二重生ヲ云フナリ、是レ等ハ皆草木ノ出生ト材料ノ自然ニ依リテ生クル花形ニシテ各其變化限リナキモノナリ、圖ニ示ス花形ハ第五頁ニ示ス如ク眞副体ノ長短ヲ備へ、眞副ハ半月形ノ内ニ納メタルモノニシテ、是レヲ正風体眞ノ花形ト稱ス、先ヅ此ノ花形ヲ基礎標準トシテ研究ノ歩ヲ進ムベシ、然レモ草木ノ自然ニ依リテハ此限リニアラズ左ニ之ヲ大別シテ示サン





### (三) 花ト花器トノ調和

總テ眞行ノ花形ニシテ花ノ眞ノ働キ(眞ノ曲リ腰ノ所ヲ云フ)ガ花器ノ側面(花器ノ最モ廣キ部分ニシテ口或ハ胴ナリ)ヨリ外ニ出ヅルコトヲ嫌フナリ、故ニ眞ノ花器ニハ眞ノ花ヲ生ケ、行ノ花ハ行ノ花器(口ノ廣キモノ)ニ生ケザルベカラズ、之レ則チ花ト花器トノ調和ヲ計ル法則ニシテ、若シ眞ノ花器ニ行ノ花ヲ生クルトキハ花形成リタリト雖モ其ノ不調和ナルハ勿論、一見シテ花器轉倒ノ憂ヒヲ感ゼシム、又行ノ花器ニ眞ノ花ヲ生クルトキハ花形甚ダ貧弱ニシテ何レモ花ノ活氣ヲ失フニ至ルベシ、花ノ長短ニ於テモ亦同様心得アルベキナリ。



# (四) 花形ノ傾斜及ビ振り方

傾斜<sup>°</sup> 眞行ノ花形ハ材料ノ屈曲ノ多少ニヨ  
 リヲ生ズルモノニシテ、自然之レニ準ジテ  
 水際ノ傾斜ニ強弱ヲ示スモノナリ、即チ眞  
 行ノ傾斜ヲ區別シ之レヲ角度ニヨリテ示サ  
 バ次ノ如シ(一圖參照)眞ノ花ハ垂線ヨリ二  
 二、五度以内ニ傾斜シタルモノニシテ、行ノ  
 花ハ二二、五度ヨリ二三、七五度ノ内ニ傾斜  
 シタルモノナリ、傾斜トハ(二圖)ニ示ス点  
 線ノ位置ヲ云フモノニシテ、材料ノ屈曲甚  
 ダシキモノハ此ノ点線ノ位置ガ強ク傾斜ス  
 ル譯ナリ、又コレニヨリテ眞副体ノ各々傾  
 斜ノ調和ヲ計ラザルベカラズ。タトヘバ眞  
 ノ花形ニシテ、眞ヲ二二、五度ニ傾斜シタル  
 トキハ、副ヲ二三、七五度ノ位置ニ開カシ体



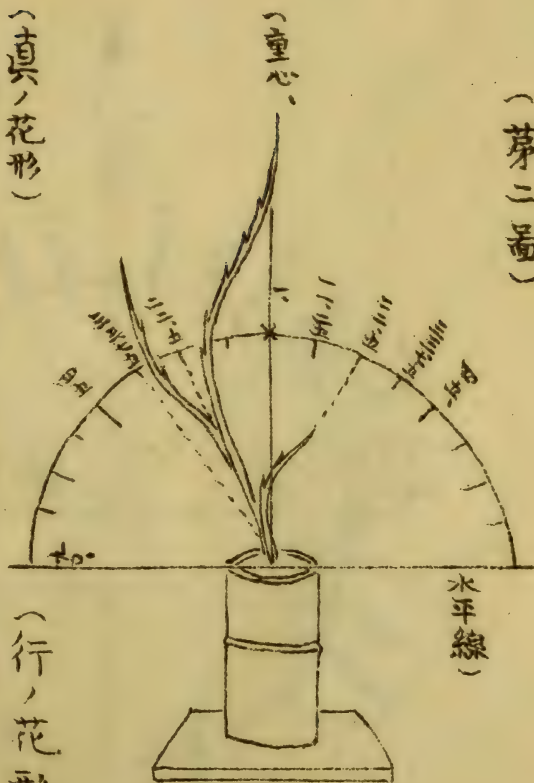


ハ二二、五度ニ振ラス、又行ノ花形ニシテ眞ヲ三三度ニ傾斜シタル時ハ副ハ四五度体ハ三三度トナス。

振リ方 眞ノ幹ハ腰ノ所（腰ハ眞ノ四歩ノ所ニシテ即チ水際ヨリ十分ノ四ノ所ナリ）ヨリ重心ニ立チ登リ副及ビ体ハ眞ニ添フテ各々其ノ働キヨリ分レ、各其ノ位置ヲ保ツ（副ハ花ノ腰ノ下ヨリ分レ体ハ水際ヨリ三寸ノ所ニテ分ル）何レモ圖ニ示ス如ク、眞ノ花形ハ三圖行ノ花形ハ四圖ノ如ク体ハ前副ハ後ニ、振リ出スモノトス。

（花器ノ口ヲ正方形ノモノトス）

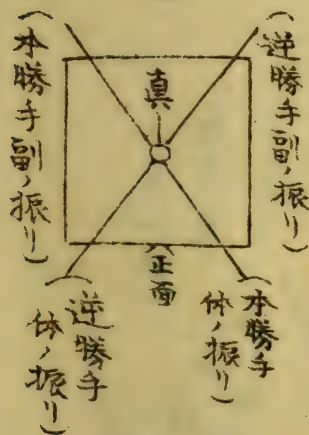
（第二圖）



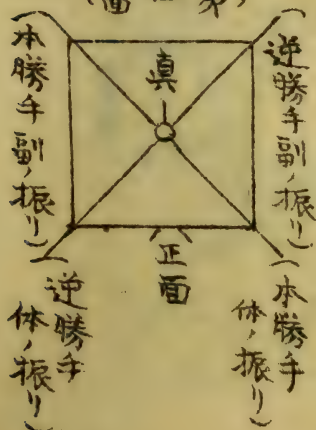
（眞ノ花形）

（行ノ花形）

第三圖



（第四圖）



## 第六 草木ノ自然性

地上ニ繁茂スル草木ハ悉ク其ノ性質及ビ形狀ニ於テ同一ナルハナク、實ニ千差萬別ニシテ同種ノモノト雖モ皆其ノ形ヲ異ニセリ、是レ草木ノ發育ハ、天然自然ニシテ、地味ノ關係或ハ地勢、或ハ溫度ノ關係等ニ依リ、或ハ大ニ小ニ直ニ、或ハ曲ニ、其ノ形自然ニアリテ邪氣ナキハ草木天與ノ自然美ナリ、中ニモ形狀ニ自然ノ風趣ヲ具ヘ庭園或ハ鉢ニ栽培セラレテ、人ニ敬愛セラル、ハ當ニ草木ノ德ト謂フベシ、斯ノ如ク變態ヲ有スル多クノ草木ハ皆空中ノ炭素ヲ吸ヒ土地ニ依リテ、養素ヲ得ルト雖モ日光ヲ受ケ其溫度ニ依リテ、發育ヲ促メモノニシテ自ラ其ノ方向(天)ニ向ツテ繁茂セントスルモノナルガ故ニ、自然枝幹ニ陰陽ノ區別ヲ表ハス所以ナリ。然レドモ花ヲ生ケント欲シ手ニ持タタル材料ハ既ニ切り取ラレテ固有ノ自然性ハ一旦失ヒタルモノニシテ、其ノ生方ノ如何ニヨリテハ、全ク材料ノ自然ヲ歿却シボツケヤク全然死花ニ至ラシムルコトアリ、故ニ花ヲ生クルニハ先ヅ材料ノ陰陽ヲ見解シ而シテ之レヲ眞副體其他アミラヒニ適宜ニ應用シ其ノ生ケタル花ハ何レモ枝先ニ至ルマデ、自然性ニ復セシメ(陽ハ天ニ向フ)花形ニ活氣ヲ現ハスコト肝要ナリ、又花ヲ生クルニ美術的技巧ハ最モ必要ナルコトニシテ、多クノ生花ハ此ノ技巧ニ依リテ卓越ナル風趣ヲ現ハスモノナレドモ之ガ程度ヲ誤リ、却テ材料ノ自然性ヲ害スルガ如キコトアルベカラズ故ニ材料ノ自然ハ即チ、其ノ生花ノ精神ナリト心得ベシ。



# 第七 材料撰訂方及ビ生方

凡テ草木ハ陽天ニ向ハントスルノ性アリ、故ニ材料ヲ撰訂スルニ先ヅ眞副体ノ材料ヲ撰ビ幹ヲ陰方ニ曲ゲ陽ヲ天ニ向ハシメ花形ヲ造ルベシ而シテ圖ニ示ス

◎此ノ印アル所ヨリ下水際ニ至ルマデ直グ矯メ直シ又

(眞ノ幹)

(体ノ幹)



節ヲヨク去リテ配リ木ニ一二三ノ番號ニ從ヒ次圖ノ如ク生クルナリ  
△此ノ印ノ方幹ノ裏ニシテ印チ陰方ナリ  
□此ノ印ノ方幹ノ表ニシテ即チ陽方ナリ。

# 同三体ノ生方 右花本勝手

生ケ方ハ前頁ニ示ス圖ノ如ク材料ヲ拵ヘ置キ一二三ノ番號ニ順ジ体眞副ト挿シ圖ニ示ス如ク体ハ眞ニ向ヒ眞ハ副ニ向ヒ副ハ眞ニ向フナリ之ヲ三体和合ト云フナリ。

一、眞ハ三本ノ中央ニシテ花器ノ重心ニ立チ登リ陽ハ天ヲ仰デヲノズカラ副ニ向フ心得アルベシ

二、副ハ花器ノ後口角ニ振リ出シテ陽ハ天ヲ仰デ眞ニ向フ

三、体ハ花器ノ前角ニ振リ出シ陽ハ天ヲ仰デ眞ニ向フ





# 第三章 アシラヒ

## 第八 アシラヒノ應用及ヒ名稱

一、『アシラヒノ意義』アシラヒハ美ノ秘訣ニシテ、凡テ美ヲ裝フモノハ其ノモノニ對スルアシラヒノ巧拙ニヨリテ甚ダ美ノ優劣ヲ束スモノニシテ、生花モ亦眞副体ノ主卉ノ外ニ生ケ交ユル材料ヲアシラヒト云フナリ、此ノアシラヒハ花形ヲ調フル上ニ必ズ用ユベキモノニシテ、是レニ依リテ各主卉ノ缺ゲタル所（淋シキ所ノ意ナリ）ヲ補ヒ或ハ一層之レニカラ添ヘル等其ノ働キ、限りナキモノニシテ、一瓶ノ花ハ此ノアシラヒニ依リテ克ク其ノ風趣ヲ顯ハスモノナリト云フベシ。故ニ主卉（眞副体）ノ材料ノ如何ニ依リテアシラヒノ遣ヒ方ヲ變化シ若シクハ増減スルモノニシテ、一瓶ニ數多ク生クルト雖モ眞副体ノ三本ノ外ハ皆アシラヒナリ。故ニ之レヲ眞ニ添フモノハ眞ノアシラヒ副ニ添フモノハ副ノアシラヒト部ニアルモノハ体ノアシラヒト三者ニ大別ス。

二、『アシラヒノ名稱』凡ソアシラヒハ、眞ノアシラヒ、副ノアシラヒ、体ノアシラヒ、ト三者ニ大別スルモノナレドモ、是レガ研究ニ便ナラシムル爲メ、其レノアシラヒニ名稱ヲ附シテ其ノ遣ヒ方ヲ明カニ示スモノニシテ即チ眞ノアシラヒニハ、眞助、眞内、眞見越、内副、副ノアシラヒニハ、副内、副カコヒ、副見越、体ノアシラヒニハ、体内、打込、胴助、胴カコヒ、胴、胴下、胴内、体向フ、体サキ、等ナリ

三、『アシラヒノ應用』右ニ示ス名稱ノ下ニ用フルアシラヒハ皆、眞、副、体ニ對スル最モ重要ナル、アシラヒニシテ各其ノ働キ及ビ位置ト長短ヲ異ニス、而シテコノアシラヒハ主卉ノ狀態ニヨリテ適宜ニ用フルモノニシテ主卉ヲ補佐シ、眞副体ノ各勢力ノ均一ヲ圖ラシムルモノナリ。順次頁ヲ追フテ其ノ用途ヲ詳説スベシ。

## 第九 五本花形 (右花本勝手)

アシラヒヲ主卉ノ前後ニ遣フ時ハ、常ニ後口高く、前低ク用フナリ。即チ圖ニ示ス如ク眞ノアシラヒヲ眞ノ前後ニ用フル時ハ、眞助ヲ低ク眞内ヲ高クスルナリ。副ノ前後ニアシラヒヲ用フル時モ亦此ノ心得アルベシ。而シテ枝ナキ草木ヲ以テ生クル時ハ、花卉ノ數ヲ眞ノ前後ニ等分シテ用ユルコトヨシ。例ヘバ五本ノ花形ハ眞ノ前ニ二本後ロニ二本用フルナリ。

一、眞助ハ眞ノ前ニ插シテ眞ニ添フテ眞ノ陽方ニ出シ、陽ハ天ヲ受ケテ斜ニ眞ニ向フ  
二、眞内ハ眞ノ後ロニ插シテ眞ニ添フテ眞ノ陰方ニ出シ奥角斜ニ振り出シ陽ハ天ヲ受ケ眞ニ向ク





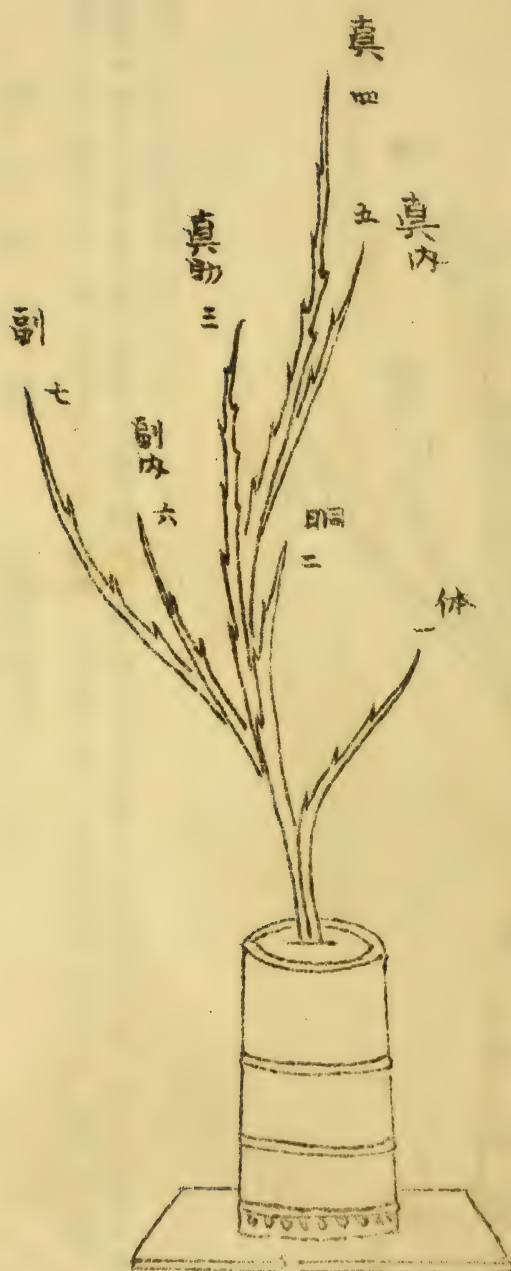
# 同、五本花形 (左花逆勝手)

圖ニ示ス花形ハ左花逆勝手ノ花ニシテ、生方ハ前頁ト同様ノ花ニシテ、只向キヲ替ヘタルノミナリ。  
 ◎(各花卉ノ働キ)總テ花ハ幾本ニテ生タルトモ、材料ノ數ハ奇數ヲ以テ調フモノニシテ各々花卉ハ悉ク眞ニ順ジ  
 而シテ何レモ其ノ位置ト働キトヲ異ニス働キトハ各花卉ガ各々其ノ位置ヲ保ツ爲ニ眞ヨリ分ル、其ノ局部ヲ云フ  
 ナリ。例ヘバ圖ニ示ス○印即チ是レナリ、眞ハ腰ヲ働キト云フ。



# 第十 七本花形 (右花本勝手)

圖ノ如キ枝無キモノハ、凡テ眞ヲ中央ニスルハ即チ眞ノ位置ト調和ヲ保ツ上ニ必要ナルモノニシテ、七本ノ時ハ眞ノ前ニ三本、後ロニ三本、九本ノ時ハ、前ヘ四本、後ロ四本ナリ、又十一本以上皆ナ前後ノアシラヒハ斯ノ如ク用フベキナリ。右七本花形ニ示ス胴ノ遣ヒ方ハ、眞ノ正面ニ挿シテ眞ニ添フテ立チ登リ、自然ニ陰方ニ振ラス又副内ハ副ト眞ノ間ニシテ副ニ添フテ後角副ヨリ少シ奥ニフリ出スナリ、其ノ他ハ前頁ニ示ス五本花形同様ニシテ幹ノ陽ハ何レモ天ヲ仰デ眞ニ向クナリ。

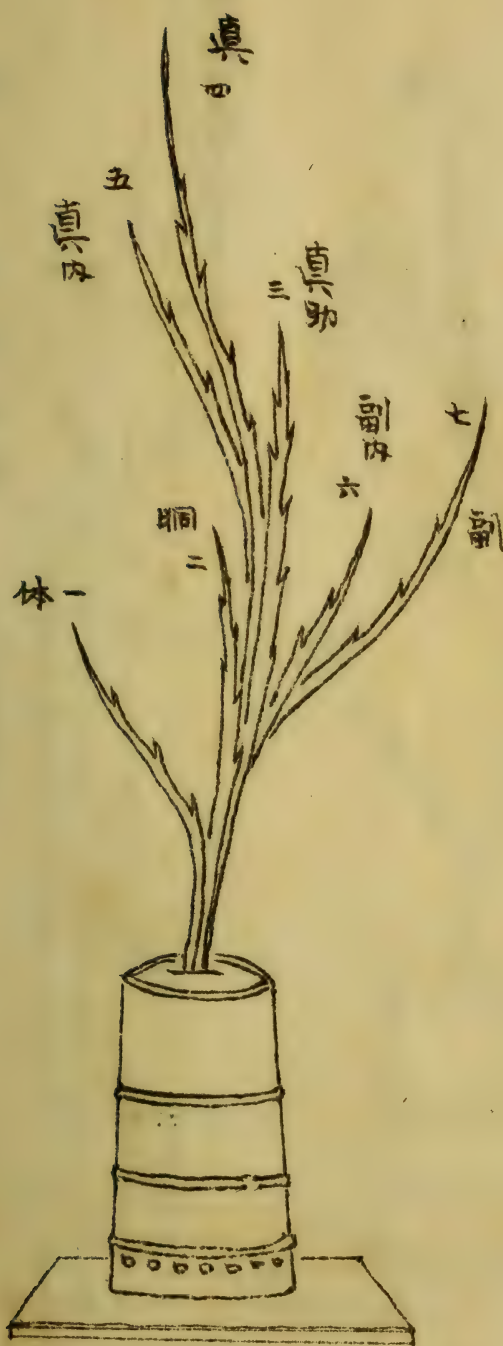




# 同、七本花形

(左花逆勝手)

各花卉ハ水際ヨリ其ノ働キマデハ眞ニ添フモノナルガ故ニ、甲ハ眞ノ何レノ處ニ働キラ生ズルカ、或ハ乙ハ眞ノ何レノ邊ニ働キラ生ズルカヲ深ク圖ト註譯ニ注意ヲ拂ヒ初進ニ於テヨク心得ザルベカラズ、此ノ生方ハ前頁ニ示ス本勝手同様ニシテ、只逆勝手ニ向キラ替ヘタルノミナリ。



# 同、七本花形

## 体向フノ遣ヒ方

圖ノ如ク体向フヲ遣フトキハ、胴ヨリ少シ低クシテ、体ト、胴トノ間ニ見ヘテ体ノ別レヨリ奥角ミニ振り出シ表テハ天ヲ仰テ眞ニ向ハスナリ。而シテ幾本生クルト雖モ、眞、副、体、ノ材料ガ同一種ノモノナルトキハ体向フヲ最後ニ挿スナリ。

◎眞内及ビ体向フノ如キ眞ヨリ陰方ニ出ズルモノハ体ノ先端ヨリ横張ルコトヲ嫌フ。





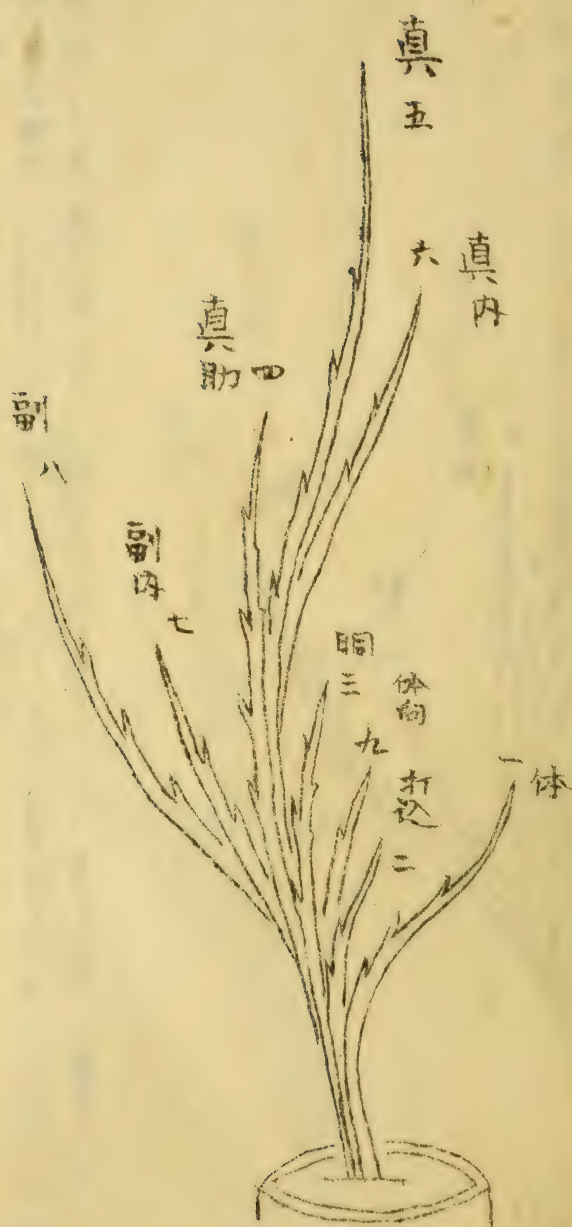
# 第十一 九本花形 (左花逆勝手)

此ノ生方ハ(二二頁)ニ示ス七本花形ニ打込ト体向フヲ増加シタルモノニシテ、打込ノ遣ヒ方ハ体ト胴ノ間ニ挿シテ其ノ中間ニ立チ、少シ体ノ方ニ振ラシ体ヨリ低クスベシ、体向フハ、終リニ挿シテ、胴ト打込ノ間ニ見セテ、体ノ別レヨリ陰方奥角ニ振ラセ、陽ハ真ニ向ハスナリ。



同、九本花形 行ノ姿 (右花本勝手)

此ノ生方ハ前頁ノ逆勝手ヲ本勝手ニ只向キヲ替ヘタルモノユシテ生方同様ナリ  
 打込ハ各花卉ノ中最モ低ク遣フアシラヒニシテコノ所ヲ谷ト云フ。





# 同、九本花形

## 内。副ノ遣ヒ方

内。副ハ花ノ陰方ヲ調和スルアシラヒニシテ、例ヘバ眞内ノ高キトキ或ハ陰方ノ引キ立タザルトキ之ヲ用ユ、而シテ内副ハ副ノ別レヨリ眞ノ陰方輿斜ニ振ラシ、胴ヨリ少々高ク遣フコトヨシ、而シテ眞内トノ調和ヲヨクスベシ。



# 第十二 拾一本花形 (右花本勝手)

胴助、副見越、眞見越、三枝ノ遣ヒ方

- (一) 胴助ノ遣ヒ方ハ打込ト胴トノ間ニ挿シ胴ノ正面ニ立チ少シ客位(陰ノ方)ニ振り幹ノ陽ハ天ニ向クナリ
- (二) 副見越ノ遣ヒ方ハ副ノ次ニ挿シテ副ヨリ奥ニ振ラスナリ
- (三) 眞見越ノ遣ヒ方ハ種々アリテ眞内ヲ遣フ時ハ眞内ノ次ニ挿シテ眞ノ陽方ニ立チ登リ眞ト眞助トノ間ノ奥ニ見ヘテ幹ノ陽ハ花ノ陽方ニ向ヒ斜ニ眞助ト相向フ又遣ヒ方ハ此ノ限りニアラズ頁ヲ追テ知ルベシ



同拾壹本花形 (左花逆勝手)

眞見越及ビ副見越ノ變化

此ノ眞見越ノ遣ヒ方ハ眞ノ枝ブリニ依リテ眞助ヲ高ク遣フ時眞助ヨリ少シ低ク遣ヒテ眞ノ調和ヲ良クスルナリ。  
副見越モ亦副ノ枝振リニ仍リテ副内ヨリ短ク遣ヒテ其ノ調和ヲ計ルコトアリ。斯ノ如ク枝物ヲ生クル時ハアシラヒ  
ノ遣ヒ方一定ナラズ其ノ枝振ニ應ジテ長短ヲ見計ヒ花形ノ調和ヲヨクスルコト肝要ナリ。







同拾壹本花形

体内ノ遣ヒ方

圖ニ示ス花形ハ眞ヨリ前ニ多ク用ヒタルモノニシテ体ノ幹幼稚ナルトキハ体ノアシヲヒテ多ク用ヒテ体ノ調和ヲ計ルベシ、斯ノ如キ場合ハ眞ヨリ前ニ數ヲ多ク挿スモ苦シカラズ。体内ノ遣ヒ方ハ体ノ次ニ播シ体ニ添フテ体ト打込トノ中間ニ立ツナリ。



# 第十三 拾參本花形

副内。及び二本胴圍ノ遣ヒ方

(一) 胴カコヒノ遣ヒ方ハ胴助ト胴ノ間ニ挿シヲ少シ陽方ニ廻キ少々前ニ振ラスコトヨシ。

(二) 副内ヲ二本用フル時ハ短カキ分(十)ヲ少シ前ニ振ラセ長キ分(十一)ヲ少シ奥ニ振ラシ副ト一列ニナラザル様注意スベシ。其ノ他ハ前ニ示セル遣ヒ方同様ナリ。





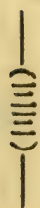
# 同拾參本花形

此生方ハ既ニ前ニアシラヒノ遣ヒ方ヲ述ベタルモノヲ以テ調ヘタル花形ニシテ其ノ配置ノ應用ヲ示セルモノナリ



眞内二本ノ遣ヒ方(一)

眞ノ陰方ヲ調和スル爲メ眞内ヲ二本遣フコトアリ。其ノ時ハ圖ニ示ス高キ(九)ノ眞内ヲ眞ニ近クシ、低キ(十)ノ



# 第十四 十五本花形

胴下ノ遣ヒ方

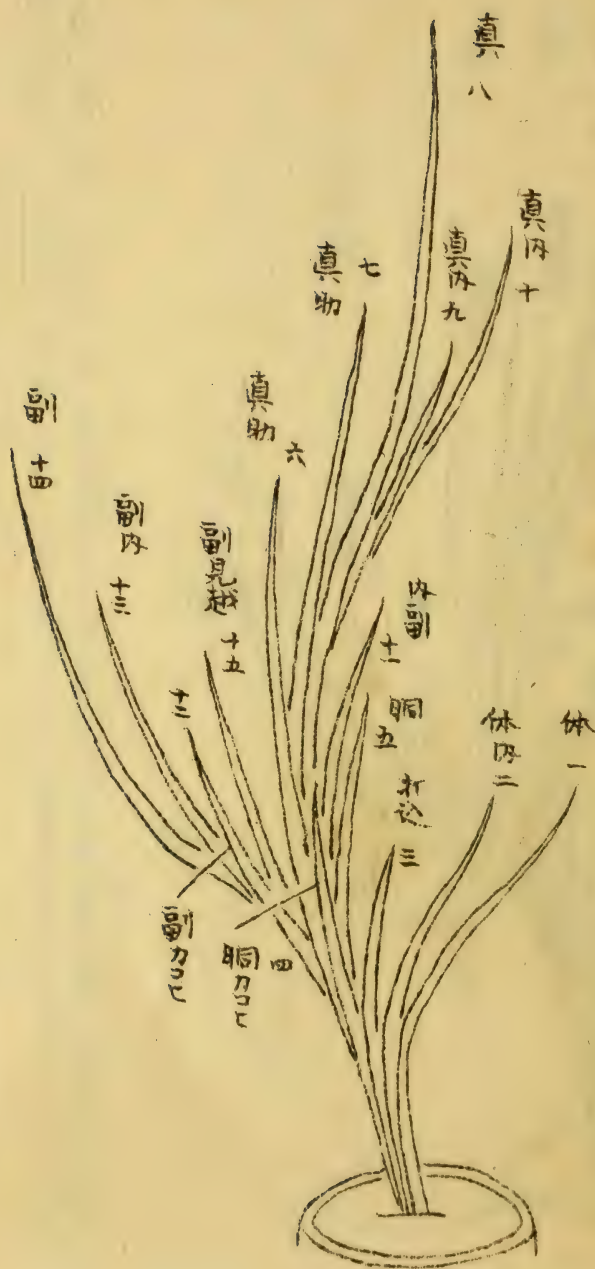
圖ニ示ス胴下ノ遣ヒ方ハ胴ノ幹(或ハ花)ノ小サキ時之レガ調和ヲナスモノニシテ、挿シ方ハ胴ノ次ギニ挿シ、胴ヨリ低ク、少シ陽方ニ振ラスナリ。





# 同拾五本花形

眞内二本ノ遣ヒ方(二)  
 眞内ヲ二本用フルトキ其ノ遣ヒ方二様アリ、圖ニ示ス眞内ノ遣ヒ方ハ(三三頁)ニ示ス眞内ノ長短ヲ反對ニセルモノニシテ、此ノ時ハ短キ(九)ノ眞内ヲ眞ニ近ク添ハシメ長キ(十)ノ眞内ヲ奥斜メニ振ラスナリ又内副ヲ高ク遣フトキハ眞見越ノ次ニ挿シ眞トノ縁ノ切レザル様調フベシ。





# 同拾五本花形

此ノ生方ハ、眞ノ部五本ニシテ眞助ヲ三本遣ヒ、又副モ五本ニシテ、副カコヒ二本、副見越二本入レ、体モ亦五本ニシテ、眞、副、体ヲ等分シタルモノニシテ、位置及ビ振り方等ハ前ニ示ス如クナリ。

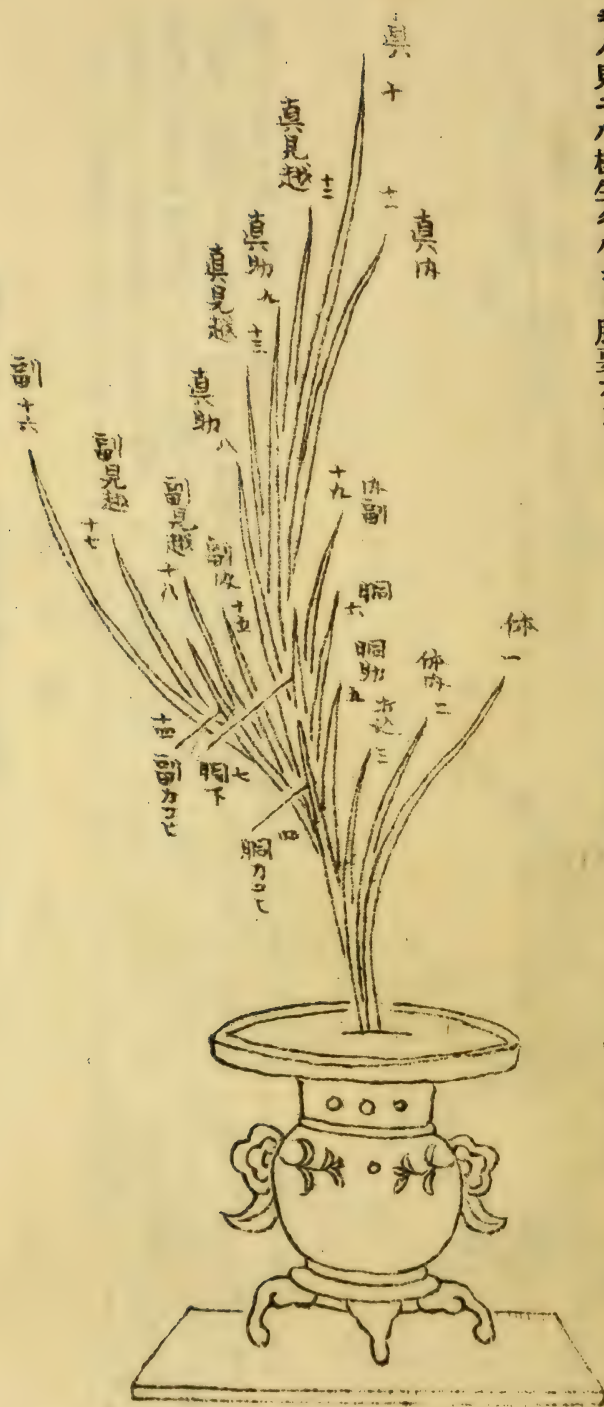






第十六 拾九本花形

以上ニ述ベタル五本花形ヨリ十九本花形ニ至ルマデノ花形ハ、アシラヒノ遣ヒ方ヲ列舉シ、種々其ノ遣ヒ方ノ變化ヲ示セルモノニシテ、變化限リナキ材料ニ接スルト雖モ、之ヲ標準トシテ、適宜ニ應用シ用フルモノナリ。而シテ圖ニ示ス如ク、次第ニ數ノ増スニ從ヒ、互ニ接觸シ易キモノナレバ、ヨク其ノ調插ニ注意シ、各々花卉ノ働きノ見ユル様生クルコト肝要ナリ。



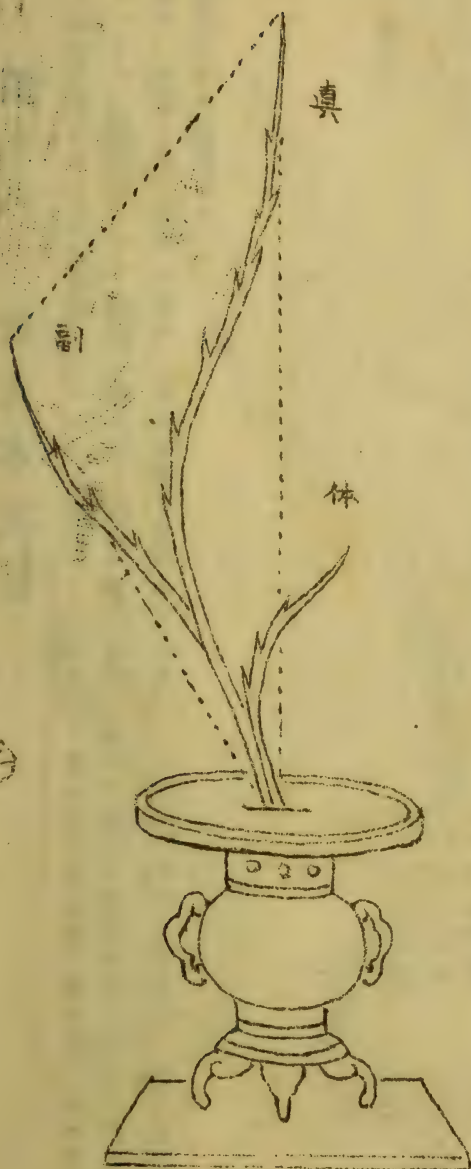
# 第十七

## 生花花形ノ原則

(其ノ二)

### (一) 一心三觀

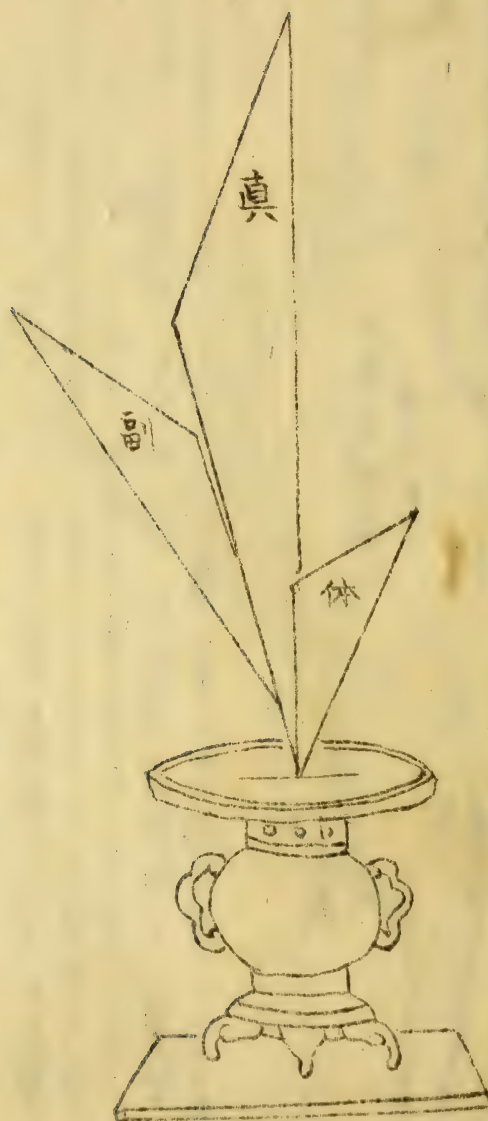
一瓶ノ花ハ眞副体ノ三者ヨリ成ルコトハ既ニ卷頭ヨリ述ベタル如クナルモ此ノ三者ハ各々相孤立スルモノニアラズ幾十本アリト雖モ各其ノ花卉ノ働キ、或ハ長短及ビ位置、又三者ノ勢力範圍、陰陽ノ調和ニ至ルマデ悉ク眞ニ順シ眞ニ從フ、即チ此ノ三者ハ判然タル位置ヲ保ツト雖モ要スル所眞ヲ中堅トシ皆之レニ歸着ス、即チ一心(一眞)ニ歸スル所以ナリ。故ニ一瓶ノ花ハ其形チ不等邊ノ三角形ヲナシ眞副体ノ三ツニ分ルヲ以テ之レヲ三觀ト云フ。然レドモ其ノ心ハ眞ノ一ニ歸スルガ故ニ之ヲ名付ケテ一心三觀或ハ一諦三觀ト云フ是レ花卉調和ノ秘決ナリ。





## (二) 不等邊三角形

眞副体ノ働キニヨリ花ハ不等邊ノ三角形ヲナス、凡テ此ノ不等邊三角形ハ美ノ最大元トテ即チ美ノ原則ナリ。富士山ノ麗ハシキモ高キガ故ニアラズ其ノ形既ニ美ノ原則ヲ備ヘタルガ故ナリ、又名畫ノ筆蹟モ多ク此ノ不等邊三角形ヲ基礎トセルモノ、如シ。方形或ハ圓形ノモノニハ殊更ニ妙趣アル美ヲ現スモノニアラズ、生花ハ此ノ不等邊三角ノ形狀ニヨリ華道特有ノ美ヲ發揮スルモノニシテ、更ニ眞、副、体ヲ各々分離シテ見ルトキハ亦三者ハ何レモアシラヒノ調和ニ依リテ各々圖ノ如キ不等邊三角形ヲナシテ、其ノ活氣ト美ヲ具フ花ハ其ノ三ツノ小三角形ヲ以テ大三角形ヲ象チヅクル所以ニシテ、常ニアシラヒヲ用フルニ此ノ心得ニテ長短ヲ緩和スルコト肝要ナリ。



# 第十八 枝物ノ生方 (一)材料ノ撰定方

木ニ生ズル枝ハ一ツノ自然ニシテ、生花トシテモ之レニ依リテ無量ノ風趣ヲ顯スモノナリ。故ニ材料ヲ撰定スルニモ妄ニ枝ヲ切り取りテ自然ヲ害シ或ハ活氣ヲ失フガ如キ事アルベカラズ。成ルベク枝ヲ助ケ其ノ枝ヲ以テアシラヒノ兼用ヲナサシムルコト第一ナリ。然レドモ副ノ裏、或ハ陰方ニ横張リテ工風ノ付カザル破月トナル枝等大略切り除キ其形ヲ附ケ(一六頁參照)而シテ花器ニ挿スベシ。若シ材料太クシテ矯メ難キトキハ圖ノ如ク、(△印)入レテ屈曲スレバ容易ニシテ、安全ナルモノナリ。而シテ材料ノ根元ヨリ働キ(別レ○印)マデハヨク節ヲ去リ直鋸ヲクタク直スベシ。



# 同枝物五本生方

斯ノ如ク枝物ハ其ノ枝ヲ以テアシラヒヲ兼用スルガ故ニ、徒ニ數ヲ多ク一瓶ニ生クルコトヲ好マズ、又材料ノ枝振リニ依リテハ圖ノ如ク眞ノ前ニ數ヲ多ク用ヒ、或ハ後ロニ多ク挿スコトアリ、強チ眞ヲ中央ニスルトノミ心得ベカラズ。枝物ハ生ケ終リテ後、技ノ縫<sup>ミ</sup>レタル所、又ハ十文字、丈ケ比ベ、窓、或ハ破月等ノ枝ヲ切り除キ、或ハ矯メ直シテ枝葉ノ亂雜セザル様調フベシ。

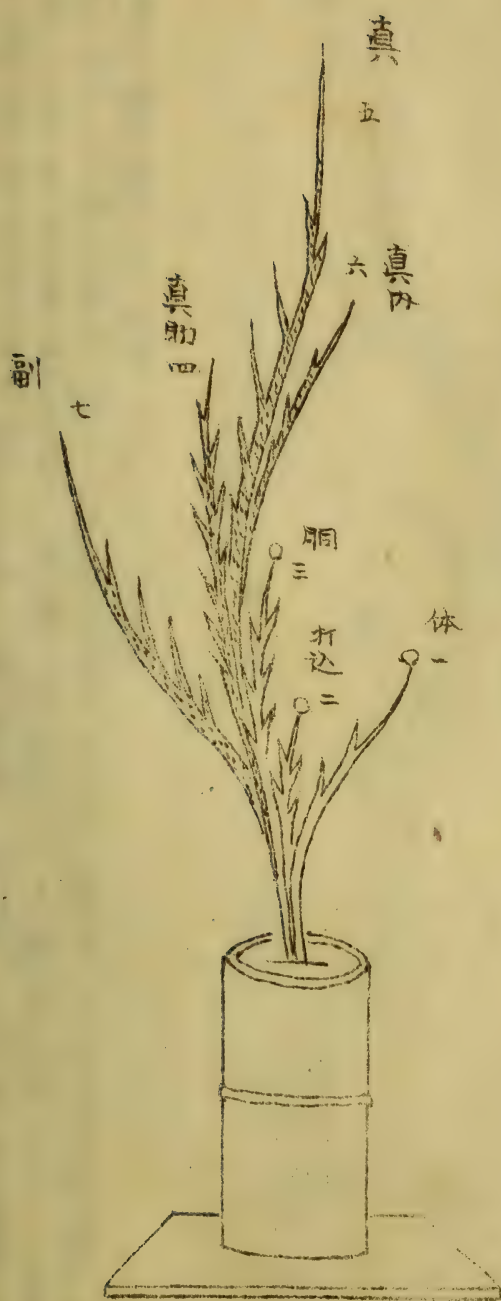




# 同 七 本 花 形

(此ノ花形ニ根ヅヲ遣フ時ハ○印ニ用フベシ)

枝無キモノハ、其ノ數ヲ前後ニ等シクスベキコトハ、既ニ述ベタル如クナレドモ、大輪ノ花アル材料、又ハ根ヅヲ遣フ場合、或ハ眞、副及ビ眞ヨリ後ニ用フル材料ニ枝アリテ、別ニアシラヒヲ用フル必要ナキトキハ、必ズシモ數ヲ前後ニ等分スルノ要ナシ、故ニ此ノ生方ハ、眞ノ前ニ、四本入レ、後ロニ二本遣ヒタルモノニシテ、斯ノ如ク種々變化スルト雖モ、三光(眞、副、体)ヲ備フル限リハ、如何様ニアシラヒヲ遣フモ差支ヘナキモノナリ。



# 同七本花形

圖ニ示ス花形ハ体ノ枝ヲ以テ打込ヲ兼用シ、又眞ノ枝ニテ眞助ヲ兼用シ、眞ノ後ニ數多ク用ヒタルモノニシテ、  
 斯ノ如ク技ナキ所ニアシラヒノ花卉ヲ増シテ花形ヲ調フルモノナリ。而シテ眞内或ハ副ノ枝ヲ以テ内副或ハ体向  
 フニ兼用スルモ若シカラズ。又眞ノ陰方後ロニ出ヅル枝アルトキハ、之ヲ眞内ニ兼用スルコトアリ。



(二) 月ニ對スル枝振りノ心得

花ノ陰方中段ニ働キヲ顯ハス胴、内副、体向フハ動トモスレバ月ニ障リ(破月)易キモノナレバ其ノ振り方ニ注意セザルベカラズ。故ニ胴ハ陰方ノ前角ニ振ラス心アルベシ。又内副或ハ体向フハ陰方後角ニ振り出シテ眞横ニ振ラスベカラズ。而シテ常ニ此ノ陰方ハ物靜カニ生タル心得アルベシ。





## 第十九 花形調挿ノ戒禁

生花ハ自カラ自己ノ精心ヲ花形ニ顯ハスモノナルガ故ニ常ニ心ヲ用ヒザルベカラズ、殊ニ枝物ヲ生クルニ枝葉ノ乱雜セルハ、最モ花法ノ忌憚スル所ニシテ、即チ枝ノ十文字トナレルハ所謂人ノ意志ヲ妨害スルノ意ヲ示スモノニシテ、世人ノ敢ヘテスル所ニアラザルハ勿論花法ニ於テモ深ク之レヲ戒ムナリ。而シテ一瓶ノ内ニ花卉ノ高サ同一ナルモノアルトキ之レヲ丈ケ比ベト云フ。丈ケ比ベハ自己ノ分限ヲ省ミズ徒ラニ他人ノ位置ヲ貪ルノ意ニシテ常ニ花卉ハ各々長短ヲ明カニシ其ノ位置ヲ保タシムルコト肝要ナリ。花形ニ窓アルハ一家ニ油斷アルガ如シ、又副下及ビ体ノ下ニ枝ナキハ陰ニ自己ナキヲ示スモノニシテ、若シ之レニ枝ノ出ヅルハ即チ陰ニ逆行ヲ事トスル意ニシテ甚ダ嫌フナリ。又屈曲セル枝物ト雖モ眞ハ常ニ中心ニスベキハ勿論ニシテ若シ眞ノ中心ニ外レタルハ宛ラ我ガ心ノ道ニ外レタルガ如シ、斯ノ如ク調挿ニ戒禁セルコトハ、實ニ人世處世ノ禁物ニシテ此缺点ヲ生ズル花ハ最モ見苦シク、又嫌忌ノ感アルモノナレバ、常ニ調挿ニ注意セザルベカラズ。

## 第二十 根ノ遣ヒ方

總テ生花ノ体ニ別種ノ花卉ヲ遣フ時、是レヲ根ベト稱ス根ベヲ用フル必要ハ、生花トスベキ、普通草木ノ何物ヲ問ハズ美シキ花ヲ持タザルモノ、又幹、枝、葉ノ美觀アレドモ花無キモノ、或ハ眞副アルモ、体ニ用フル材料不足ノ場合、若クハ眞副ニ花アレドモ美ヲ備ヘズシテ余リ引立ザル時、若クハ材料ノ草木ニ花アルモ更ニ相當ノ風美ヲ加フル場合等ニ用ユルモノニシテ、其他凡テ花ナキ草木ニハ必ず花ヲ以テ根ベヲスベキナリ。

根ベニモ亦眞副体ノ意義ヲ以テ、三本、五本、七本、九本、十一本ト種々遣ヒ方アリテ材料ノ格好ニ仍リテ是レヲ應用スベキモノナリ。故ニ圖ニ依リテ第一、三本ヨリ漸次五、七、九等ノ各本ニ亘リテ其ノ遣ヒ方ヲ詳説ス、根ベノ体ノ高サハ、眞ノ三分ノ一乃至四分ノ一トス凡テ花形ノ胴迄ハ体ノ部ニシテ、根ベトシテ別種ノ花卉ヲ遣フ時ハ必ず胴迄ヲ以テス、故ニ根ベヲ遣フ時ハ胴ハ体ノ眞トモ稱ス、又根ベハ一本ヲ以テスルコトナク必ず二本以上用フベシ、其ノ他生方或ハ位置ニ於テハ前ニ体ノアシヲヒトシテ述ベタルモノト異ルコトナシ。

# 根ハ三本ノ遣ヒ方及ビ五本花形

根ハハ体、打込、胴ノ三本ヲ以テ根本トス。根ハノ格好ハ下圖ニ示ス如ク此ノ三本ヲ撰ビ置キ、花形ノ如ク体ノ高サハ真ノ三分ノ一ヨリ四分ノ一迄ニ位シ前角ニ振リ出シ、打込ハ体ト胴ノ間ニ入レ体ヨリ低ク遣ヒ、胴ハ真ノ正面ニ挿シテ、真ニ添テ立チ、自然ニ陰方ヘ振ラスナリ、陽(表)ハ何レモ天ヲ仰デ真ニ向クナリ

体ノ花ハ半開若クハ荅ミヲ用ヒ打込ニハ開キ花胴ニハ半開ノモノヲ用フルコト最モヨシ





同根ノ三本体向フノ

方



圖ニ示ス如ク体ノ幹ニ枝花アル時ハ是レヲ打込ニ兼用シ  
別ニ体向フヲ用フ、斯ノ如ク根ノ遺フ時ノ体向フハ必  
ズ根ノ同種ノモノヲ以テシ、胴ノ次ニ挿シ奥角ニ振ラ  
スベシ、凡テ根ノ用フル花大輪ノモノナルトキハ、花  
ノ數ヲ半ニ用フルナリ



# 根 二 本 ノ 遣 ヒ 方

圖ノ如ク二本ヲ以テ根ヅナストキハ、其ノ枝ヲ以テ、三段若シクハ五段トナスコトヨシ、凡テ二ト云フ數ハ生  
花ニ多ク用フル所ニシテ（二本ヲ以テ一瓶トナスコトアリ）此ノ數ハ陰陽ト云フニツヲ象リタルモノニシテ、凡  
テノ物ハ陰陽ノ二ツノ和ニヨリテ生ズル所以ヲ示セリ、其ノ他根ヅナ偶數ノ花卉ヲ以テ生タルトキハ、其ノ枝ヲ  
以テ半ノ數ヲ現ハスベシ、此ノ場合ハ眞副ノ部ニ用ヒ  
タル材料ヲ半ノ數トナシ、根ヅナ奇數ナル時（体）ハ眞副  
ノ部ノ材料ヲ偶數ニ用ヒ、一瓶ノ花ハ常ニ半ノ數ヲ以  
テ調フベキモノト知ルベシ



# 根ノ五本ノ遣ヒ方

根ノ五本ノ遣ヒ方ハ、材料ニ依テ種々變化多クシテ、一定ナラズ故ニ漸次二三ノ遣ヒ方ヲ示ス、此ノ五本ノ挿シ方ハ第一、体ヲ挿シ次ニ体ヨリ低ク打込ヲ入レ、体ト胴助トノ間ニ立タセ其ノ次ニ胴助ヲ挿シ胴ニ添フテ立チ、次ニ胴ヲ真ノ正面ニ添テ少シ陰ノ方ニ振ラセ、而シテ体向フハ胴ノ後ロニ挿シ陰方奥斜ニ振ラセ打込ト胴助トノ間ノ奥ニ見ユル様ニ用フナリ





同五本ノ根ノ遣ヒ方

胴カコヒハ胴ノ前ニ挿シ少シ陽方ニ振ラシ、胴ヲ圍フ心持ニシテ、何レモ花卉ハ眞ニ向ハス心得アルベシ、又根  
ノ花ノ配置ハ、体ニ苔ミ若シクハ、半開ヲ用ヒ、打込ニ開キ花ヲ遣フ、其ノ他ハ材料ノ都合ニ依リ、格好ヨク  
配置スベシ





# 同根ノ七本ノ遣ヒ方

圖ニ示ス七本ノ根ノ根ハ胴。下ヲ入レタルノミニシテ、他ノ遣ヒ方ハ前頁ニ示ス配置ト同様ニシテ、胴下ノ遣ヒ方ハ胴ノ花卉ト眞助ノ幹ト縁ノ離ル、時、胴ト眞助トノ間ニ挿シテ根ノ眞ノ調和ヲ良クスルナリ、而シテ胴下ハ陽方ニ振ラスベシ





根ノ九本ノ遣ヒ方 (茶梅花)

總テ根ノハ体、打込、胴ノ三ツヲ基礎トシ、其ノ調和ヲ採リテ、數ヲ増スナリ、圖ニ示ス九本ノ根ノヲ九段ト稱ス  
 斯ノ如ク根ノヲ多ク用フル時ハ、各々長短ヲ見計ヒ、其ノ位置ヲ明カニシ、花輪ノ密觸セサル様注意スベシ



根ノ拾壹本ノ遣ヒ方

根<sup>ノ</sup>九本、或ハ十一本ヲ遣フトキハ、小輪ノ花卉ヲ以テ挿スモノニシテ、種々遣ヒ方アリテ材料ノ格好ニ依リテ其ノ趣ヲ異ニスト雖モ、圖ヲ標準トシテ大差ナカルベシ、尙小サキ花卉ノ根<sup>ノ</sup>ニ至リテハ、以上ニ數ヲ増スモ苦シカラズ、斯ノ如ク三本ヨリ十一本ニ至ル根<sup>ノ</sup>ハ實地材料ノ有無、其他格好ニ應ジ、各々相交ヘ或ハ増シ或ハ省キテ用フベキモノニシテ、一定シタルニアラザレバ、實地研究ノ上之ヲ應用スベキナリ。

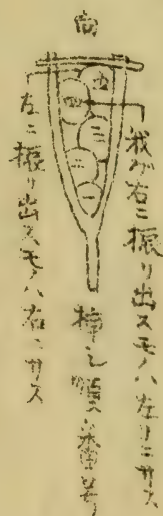


# 第二十一 花留ノ事

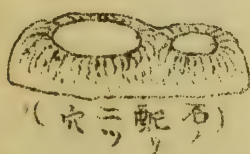
花留ハ凡テ草木ノ眞行草ノ生方ニ仍リ、又其ノ材料ト花器ノ都合ニヨリテ、種々ノ花留(配リ)ヲ用フルモノニシテ、第一圖ニ示スマタノ配リハ普通ノ花器(廣口ノ鉢ヲ除ク)ニ用フルモノニシテ、圖ノ如ク右ニ振り出ス幹ハ配リノ左ニ寄セテ挿シ、左ニ振り出スモノハ右ニ寄セテ挿ス時ハ、水際ノ締リヨク調フモノナリ。(數多ク數十本生クルトキハ此ノ限リニアラズ)又花ニ仍リテ井筒ノ配リヲ用フルコトアリ。(留メ方地ノ卷ニアリ)其ノ他草ノ花ニ至リテハ一字留十文字留シモク等ノ留メ方アリ(仁ノ卷ニアリ)

行ノ花ハ凡テ口ノ廣キ花器ニ生クルモノニシテ、之ヲ廣口(砂鉢トモ云フ)ニ生クル時ハ圖ニ示ス花留(一名澗水又花配リトモ云フ)ヲ用フルナリ、此ノ花留ニモ種々アリテ、家元池ノ坊ノ好ミノモノハ五種アリ、即チ圖ニ示ス第二、三、四、五、六圖是ナリ、其ノ他ノ配リハ池ノ坊ノ好ミニアラズ、然レドモ自己ノ都合上間ニ合ニ用フル時ハ砂、或ハ小石ニテ其ノ澗水器ヲ隱ス

第一圖又配リ



第二圖



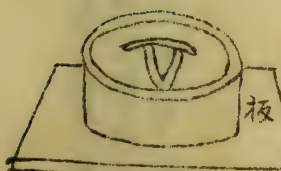
第三圖

第四圖

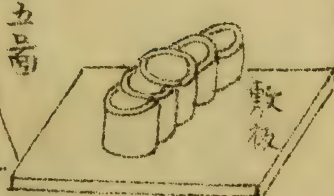


(石配リ)

第五圖



(竹配リ)



(竹配リ)



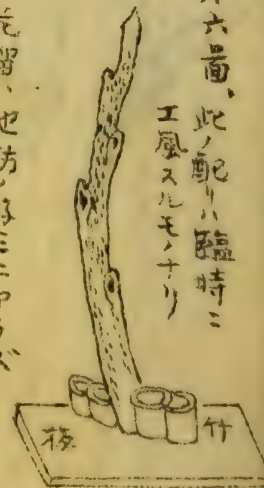
ベシ、是等ノ淵水ハ材料ノ大小或ハ數ノ多少等ニ仍リテ應用ス  
 ルモ差支ヘナシ、而シテ五ツ穴ノ花配リヲ遣フ時ハ、第一中央  
 ノツボニ眞ヲ挿シ、後ノツボニ副ノ部ヲサシ、前ノツボニハ体  
 ヲ挿スナリ。又第五圖ノ如キ筒配リヲ用フル時ハ、之レニ配リ木  
 (マタ)ヲ切込ミ常ノ如ク体ヨリ挿スベキナリ。第六圖ニ示ス留  
 方ハ古木或ハ大木ヲ用フル場合ニシテ、板ニ其ノ木ヲ打附ケ前  
 後ニ圖ノ如ク竹ノ渦ヲ打附ケテ用フルナリ

## 第四章 葉 蘭

### 第二十二 葉蘭ノ陰陽

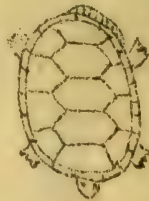
生花ハ於ケル陰陽ノ判別ハ最も重要ノ事ニ屬スルモノニシテ、葉蘭ハ殊ニ陰陽ヲ示スニ判然タルモノナルガ故ニ、  
 左ニ數種ヲ揚ゲ葉蘭特殊ノ生方ヲ示說スルト同時ニ花体ノ陰陽ヲ明カニシ、各花卉(眞、副、体)及ビアシラヒノ陰

第六圖、此ノ配リハ臨時ニ  
 エ風スルモノナリ



左ノ花留ハ池坊ノ好ミニニアラス

(配) 甲 龜



(室 七)

(形 水 菜)



(形 湯)

陽和合ヲ顯シ以テ三体和合ノ資考トス。凡テ藥物ハ表ヲ陽裏ヲ陰ト通稱スルモノナレドモ、葉蘭ハ一枚ノ葉ニ廣狹アリテ是レヲ陰陽ニ分チ、一瓶ノ花形ノ陰陽ト併合セシムルモノニシテ、葉ノ廣キ方ヲ陽方ト云ヒ、狹キ方ヲ陰方ト云フ、故ニ葉ノ狹キ陰ノ方ヲ同ジク花ノ陰方ニ向ケ、廣キ陽ノ方ヲ花ノ陽方ニ向クルモノナリ

## 葉ノ撰訂方

葉蘭ハ葉ノ廣狹ニヨリテ遣ヒ方ノ定マルモノナレバ其ノ撰定ニ最モ注意ヲ要ス、圖ニ示セルハ本勝手ニ用フル葉ノ撰定法ニシテ、葉ノ裏ヨリ見テ、我が左ノ廣キヲ眞ヨリ前ヘ体迄ニ用ヒ、又眞ノ後ロニ遣フ葉ハ其ノ反對ニシテ表ヨリ見テ左ノ廣キヲ用フベシ。生方ハ次ニ示セリ



此ノ〇印ハ葉ノ廣キ方ヲ示セルモノナリ

## 第二十三 葉蘭水揚法及ビ五枚ノ生方 (右花本勝手)

葉蘭ノ水揚ハ下圖ノ如ク狭キ方ヨリ直グニ卷キ込ミ葉ニテ括リ二時間計リ冷水ノ中ニ全部浸ケ置タベシ、又葉ニ酒ヲヌリ、根ヲ酒ニ浸ケ置クモヨシ五枚ノ生方ハ前圖ノ如キ大中小ノ葉ヲ撰ビ置キ眞ヲ中央ニシテ數ヲ前後ニ等分シ圖ノ如ク後口高ク前低クシテ眞ノ前ヘ

二枚後口二枚用フルナリ。而シテ陰陽ノ向

キ或ハ前後長短ハ圖ニ仍リテ知ルベシ

一、眞ハ中央ニシテ葉ノ陽ハ天ヲ仰デ副ニ向ク

二、眞助ハ眞ニ添テ葉ノ陽ハ斜ニ眞ト副ニ向ク

三、眞内ハ後口斜ニ振リテ眞ニ向ク

(水揚ノ順序焉ノ如クス)



- 四、副ハ後口角ニ振リ出シ葉ノ陽ハ天ヲ仰デ眞ニ向ク
- 五、体ハ前角ニ振リ出シ葉ノ陽即チ表ハ天ニ仰デ眞ニ向ク



# 同五枚逆勝手葉ノ撰訂方

葉蘭ハ圖ノ如ク大中小等ノ葉ヲ用ヒ逆勝手ノ撰訂方ハ  
 葉ノ裏ヨリ見テ、我ガ右巾ノ廣キモノヲ眞ヨリ前ヘ体マデ  
 ヲ用フ、又眞ノ後ロニ遣フモノハ、其ノ反對ニシテ表ヨリ  
 見テ右ノ廣キヲ用フルナリ。總テ葉蘭ハ斯ノ如ク撰訂スル  
 モノニシテ眞ノ前後ニ遣フ葉ノ陰陽、即チ廣狹ヲ誤ルコト  
 勿レ。



# 同五枚花形 (左花逆勝手)

逆勝手ハ前頁ニ示ス如ク葉ノ廣狹ハ本勝手ノ反對ニシテ向キヲ替ヘタルモノナリ、而シテ葉ノ振り方ハ(六一頁)ノ五枚花形ト同様ナリ。

又葉ノ大小ハ眞ニ大副ハ眞ヨリ少シ小サキモノヨシ、体ハ少シ巾ノ廣キ短カキモノヲ用ユ眞助ハ副ヨリモ少シ小サク直キ物ヨシ、眞内ニハ細長キモノヲ用ユルコトヨシ。

一、圖ノ如ク眞助ハ花ノ陽方ニ出ザル時ハ胴ニ兼用シテ眞ノ正面ヨリ少シ陽方ニ趣キ斜ニ眞ニ向ク

二、眞内ノ葉ハ凡テ後口斜ニシテ表ハ眞ニ向クナリ又葉ノ格好ニ依リテハ圖ノ如ク葉ノ表全部見ユルモ差岡ナシ



# 第二十四

## 葉蘭七枚花形

(左花逆勝手)

此ノ七枚花形ハ前(六一頁)ニ示シタル五枚花形ニ胴ト副内ヲ加ヘタルモノニシテ、胴ハ体ト眞助トノ間ニシテ眞ノ正面ヨリ少シ陰方ニ振り、斜ニ葉ノ表ハ眞ニ向ク、又副内ハ眞ト副トノ間ニ入レ副ニ添フテ少シ奥ニ振り出スナリ、而シテ葉表ハ眞ニ向ハスナリ。





# 同七枚ノ生方

此ノ生方ハ（六四頁）ニ示ス、花形ノ副内ヲ除キ、体向フヲ遣ヒタルモノニシテ、其外同様ナリ、体向フハ凡テ体ノ別レヨリ奥角ニ振り出シ葉ノ表ハ眞ニ向クベシ、又眞内ノ垂レタル時ハ眞助ヲ立チ登ラスナリ、而シテ眞内ノ葉ハ細長キモノヨシ、眞助ニハ少シ巾ノ廣キモノヲ用ユ胴ハ巾廣キ短キモノヨシ、体モ亦同ジ体向フニハ巾ノ狭キ小サキ葉ヲ遣フコトヨシ。



## 第二十五 葉蘭九枚ノ生方

此ノ生方ハ(六四頁)ニ示ス七枚花形ヘ、打込ト体向フヲ加ヘタルモノニシテ打込ハ体ト胴トノ間ニ低ク用ヒ、体向フハ、終リニ挿シテ、体ノ別レヨリ奥斜ニ振り出シ表ハ眞ニ向クナリ。



# 同九枚花形

此ノ生方ハ眞ヲ數ノ中央ニセズ、眞ノ前ニ五枚用ヒ後ロニ三本用ヒタルモノナリ、胴下ノ遣ヒ方ハ、胴ト眞助トノ間ニ入レ少々陽方ニ振ラスナリ、又格好ニ依リテハ胴カコヒニ遣フモ可ナリ。





# 第二十六 葉蘭拾壹枚ノ生方

## 胴圍及ビ副圍ノ遣ヒ方

此ノ生方ハ眞ヲ中央ニシテ、眞ノ前へ五枚後ロニ五枚遣ヒタルモノニシテ、胴カコヒノ遣ヒ方ハ打込ト胴トノ間ニ入レ斜ニ陽方ニ振ラスナリ。又副カコヒハ副ノ前ニ入レ副ニ添フテ少シ前ニ振ラスベシ、而シテ副ニ垂レ葉ヲ遣フ時ハ少シ高ク挿スコトヨシ、又眞助ノ葉先キ垂レタル場合ニハ、眞内ヲ登ラスナリ。凡テ葉ノ表ハ眞ニ向ハスコト肝要ナリ。



# 同拾壹枚花形

蜘蛛ノ巢眞内ノ遣ヒ方

圖ノ如ク蜘蛛ノ巢ガ、リハ眞内ニ用フルコトヨシ、又眞内ヲ高ク遣フ時ハ、体向フモ亦少シ高ク遣フナリ。而シテ副内ヲ長クシ、副見越ヲ短ク遣フ時ハ、副内ト眞助トノ間ニ見セテ奥斜ニ振ラスナリ。



# 第二十七 葉蘭拾參枚花形

葉大小ノ心得

葉蘭ハ數ヲ増スニ從フテ葉ノ位置亂雜シ易キモノニシテ葉ノ撰訂ニ最モ注意セザルベカラズ、故ニ眞ニハ大、副ニハ眞ヨリ少シ小サク、眞助ハ副ヨリ少シ小、体ハ眞助ヨリ小サクシテ巾廣キモノ、打込ヨリ胴ノ間ハ体ヨリ小サクシテ巾廣キフクミタル形ヨシ、胴下ハ胴ヨリ少シ小、眞内ハ巾狭ク長キモノ、眞見越ハ眞内ヨリ少シ小ニシテ、立葉ヨシ、副見越ハ副ヨリ最モ小ニシテ巾狭長キモノ、副カコヒハ胴下位ニシテ少シフクミタル短キモノ、体向フハ小サク少シ長クシテナビキタルモノヨシ、何レモ斯ノ如ク撰訂スベキナリ。





# 葉蘭垂レ葉ノ遣ヒ方

## (拾參枚花形)

垂レ葉ノ遣ヒ方ハ圖ノ如ク副ヲ垂ラセバ、体ノ葉先ヲ登ラス、胴ヲ垂ラセバ胴助ヲ立タス、眞内ヲ垂ラセバ眞助ヲ立タス様ニシテ、同所ニ二枚並ベテ垂レ葉アルハヨロシカラズ、拾參枚ノ花形ナレバ、三ヶ所位ハ垂レ葉ヲ用ヒルモ以上ハ見苦敷モノナリ。斯ノ如ク垂レ葉ハ陰ニ垂ルゝ時ハ、陽ニ立タセ又陽ニ垂ルゝ時ハ陰ニ立テ葉ヲ用ヒ垂葉相對スルコトアルベカラズ。









## 第二十九

## 生花花形ノ原則

(其ノ三)

花ヲ生クルニアシラヒテ増スニ從フテ各花卉ノ連續シテ徒ラニ無意義ニ流レ易キモノナリ、抑モ花ノ形狀ヲ一世界ノ現象ナリト既ニ前ニ述ベタレドモ、其ノ謂フ所寧ロ弘大ニ過ギ却テ意義ノ分明ヲ缺キ花形ノ根抵ヲ定ムルニ困難ナルガ如シ、故ニ茲ニ

單純ナル規法ノ下ニ之レガ

註譯ヲ施シ花形ノ意義ヲ明

カニスベシ、即チ一瓶ノ花

形ハ一ツノ山水ノ風光ヲ象

チ造リタルモノナリ。此ノ

花形ノ中ニハ主山近山遠山

或ハ溪谷アリ平地アリテ萬

物萬象ヲ悉ク此ノ中ニ存セ

シム、是レヲ花法ニ則リテ

分別セバ即チ陰陽(花ノ陰

方陽方ヲ云フ)嶺、瀧、岳、市

尾トス圖ニ示ス嶺ハ主山ニ

シテ之レヲ後ロノ山ト云フ岳ハ近山ニシテ前ノ山ナリ、此ノ間ニ溪アリテ水ノ流レヲ示セリ、瀧トハ主山ヨリ落ツ

ル水ノ瀧ヲ象チドリタルナリ、此ノ水ハ溪ヲ流レテ尾ニ注グ、尾ハ即チ水邊ニ接續スル意ナリ、市ハ平地ヲ現ハシ

タルモノニシテ人畜ノ存在スル意味ヲ顯セリ、又アシラヒニ眞見越或ハ副見越ト云フハ遠山ノ心ナリ、故ニ圖ニ示



圖ノ如ク眞ト眞助ノ間ヲ瀧口トシ此レヨリ水ハ流レテ副ノ内ニ落チ胴ノ内(谷)ヲ通ジテ体向フニ突キ當リ水ハ反動シテ体ノ内(小谷)ヨリ尾ニ注グナリ。

(圖ニ△此ノ印アルハ水ノ流レナリ)

(圖ニ△此ノ印アルハ水ノ流レナリ)

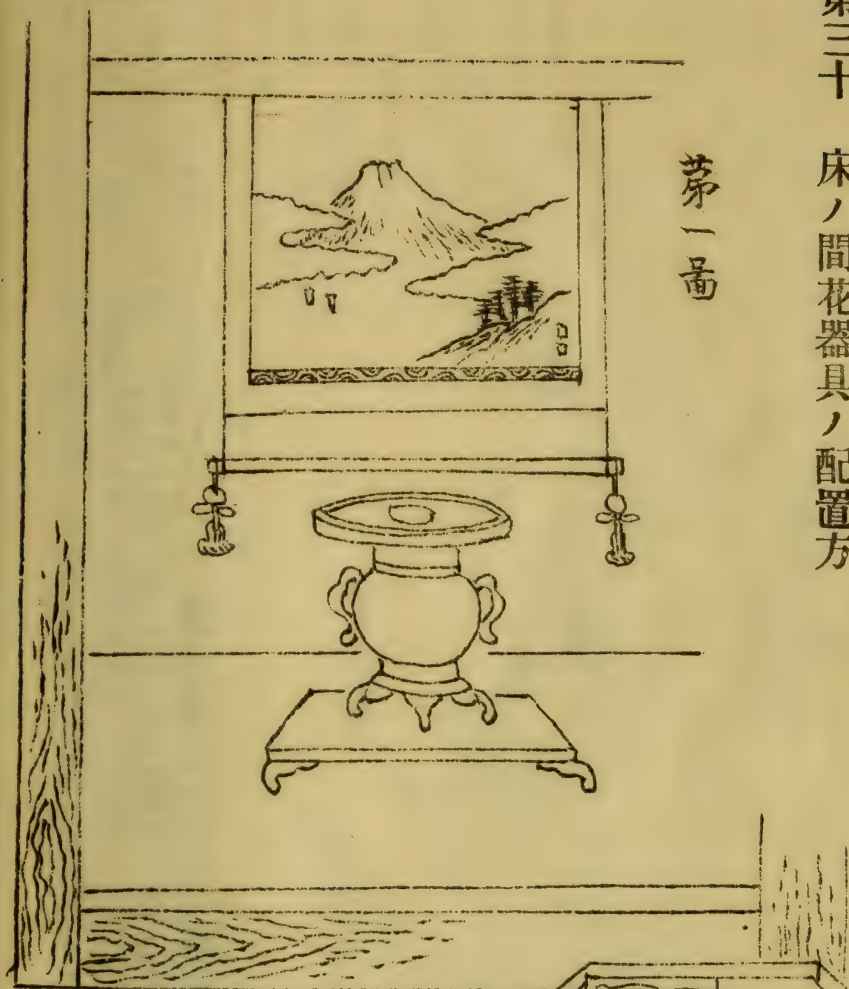
(第二篇)



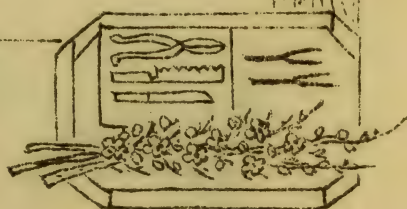
# 第五章 花道ノ禮式

## 第三十 床ノ間花器具ノ配置方

第一番



座ス





## 第三十一 生法ノ大意

準備、花ヲ生ケントスルニ豫メ之レガ準備ナカルベカラズ、若シ其ノ準備ノ足ラザル時ハ花ヲ生クル中途ニ於テ再ビ座ヲ立ツ等ノコトアリテ、却テ時間ヲ費シ誠ニ見苦シキモノナリ、華道ノ禮儀ハ之等ノコトヲ戒メ主客互ニ不快ノ感ナカラシメンコトヲ要ス、凡テ客ノ前ニテ生クル時、或ハ自身ガ客トナリ、主人ニ所望セラレタルトキハ勿論平素ニ於テモ常ニ此ノ心掛ナカルベカラズ、先ヅ花盆ニ材料及ビ配リ木、花道具、花巾ヲ取り揃ヘ水指シ等右圖ノ如ク床ノ前ニ備ヘ置キ靜カニ着手スベシ。

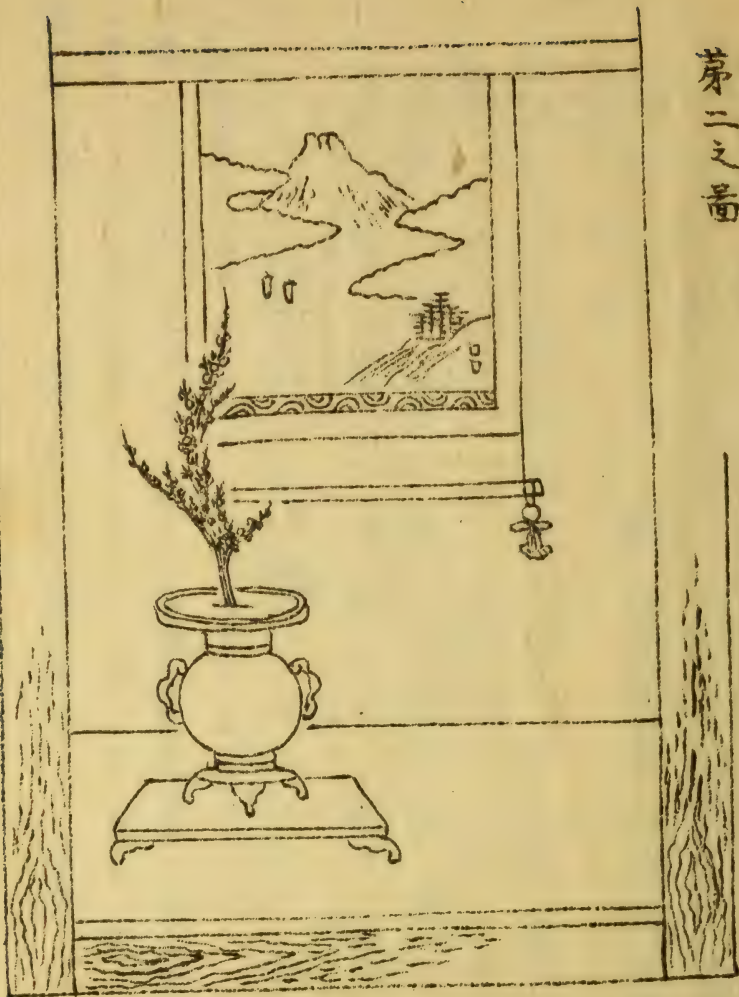
姿勢、花ノ一枝一葉ニ至ルマデ、活々タル花ヲ生クルニハ、先ヅ己ガ姿勢ヨリ正サルベカラズ、姿勢正シケレバ自ラ活氣溢ル、ノ花ヲ生ケ得ベシ、是レ健康ナル身体ニ、活潑ナル精神ノ宿ルガ如ク、生花ハ自ラ自己ノ精神ヲ花形ニ現ハスモノナレバ聊カモ忌憚ナル動作アルベカラズ、花ヲ生クルノ姿勢ハ、自己ノ下腹ニ力ヲ入レ、胸ヲ張り、口ヲツムギ、常ニ自若タルノ態度アルベシ。

生ケ方、床ノ前ニ座シ花器花臺共ニ床縁ノ際マデ引ヨセ、花盆ノ方ヘ向キ左圖ノ如ク道具ヲナラベ、配リ木ヲ取り

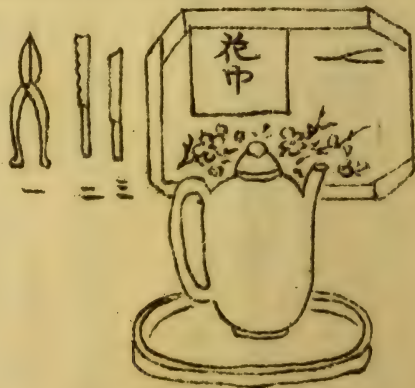
テ花ノ大小ヲ見計ヒ、花瓶ニ切込ミ、右ノ手ニテ花巾ヲ取り其ノ儘左リ手ヲ添ヘテ二ツニ折り左リノ手ニ持チ右手ニテ水指ヲ取り花巾ヲアシラヒ、水六七分ヲ注ギ、水指ヲ其ノ儘盆ノ上ニ置キ、花巾ヲ又、右ノ手ニ持チカヘ花盆ノ上ニ置ク、夫レヨリ花ヲ取り夫々見立テ不用ナル枝ヲ大畧花盆ノ上ニ切り落シテ生クルナリ、生ケ終リテ後チ枝ヲ切ル時ハ、左ノ手ヲ添ヘ切り取り一々花盆ノ内ニ入ルベシ。愈々生ケ上リタレバ、花臺ト共ニ床ノ中央少々下座ニ据ヘ、又前ノ如ク花巾ヲアシラヒ水ヲ注ギ水指ヲ盆ノ上ニ置キ、花巾ヲ右ノ手ニ持チカヘ、花瓶、花臺、床縁等ヲ拭ヒ、花盆ノ上ニ元ノ如ク、花巾ヲヒロゲ、其ノ上ニ道具ヲ收メ左右ヲ能ク見改メ、花ノチリヲ拾ヒ盆ニ入レ、花盆並ニ水指等ヲ少々下ニ送り置キ、床ノ前へ三尺ヲ隔テ、花ヲ克ク改メ見テ退クベシ。

花巾寸法ハ晒木綿曲尺ニテ壹尺五寸ナリ

第二之番



座ス





# 主人ノ心得

客ニ花ヲ所望スルトキハ、花盆ニ花並ニ花巾、道具等ノ組ミ方、又花器ト花トノ取り合セ等ニ注意シ、アマリ生ケ惡クキモノ、或ハ毒花、毒草、香リノ惡シキモノ等人ノ嫌フ物ハ都テ出スベカラズ、道具ハ花巾ヲ四ツ折ニシテ其ノ上ニ(七六頁)ニ示ス圖ノ如ク置クベシ。花配リモ大小ノ格好ヲ見計ヒ又木物ニテ幹大キ物アル時ハ、鉈<sup>ノコギリ</sup>及ビ鋸、切臺等ヲモ花盆ニ組ミ又草花ノ時ハ必ず手助露ヲ添ヘ置クベキナリ。

## 第三十二 花道ノ心得

一、人ノ此ノ世ニ處スルヤ心神ヲ勞シ、必ズ一面ニ於テ之レガ慰安ヲナサザルベカラズ、此ノ時ニ當リ一度之レガ法ヲ誤ラバ貴重ノ財ヲ散ジ、或ハ墮落<sup>ダラダラ</sup>シテ人格ヲ毀損<sup>ヒソソ</sup>シ國家ノ排物<sup>ハイアツ</sup>トナリ家名ニ傷ケ、遂ニ放浪<sup>ハウロウ</sup>ノ泥界<sup>ディカイ</sup>ニ墮落<sup>ツイラク</sup>シ一時ノ慰安ハ復タ救フベカラザルノ苦悶<sup>クモン</sup>ニ陷ルナリ。花道ハ之レ其ノ無上ノ慰安法ニシテ清淨無垢ノ草木自然ノ美ニ接シ邪念ヲ去リ而カモ多クノ時ト財トヲ費サズ最モ高潔ニシテ其快樂盡クルヲナキモノト知ルベシ

一、花道ヲ知ルヲ以テ誇リトスルモノハ虛飾<sup>キョシヨク</sup>ニ陷リ斯道ノ心理ニ背反シ眞ニ花道ヲ知ラザル者ナルヲ思フベシ  
一、花道ハ只ニ身心ノ慰安タルノミナラズ、其ノ示ス所天地ノ現理<sup>ゲンリ</sup>ヲ以テシ、説クニ人倫<sup>ジンリン</sup>ノ大道ヲ以テス、之レ精神修養悟道ノ要法タルコトヲ忘ルベカラズ。

一、花道ハ教育ノ要法ナレバ各自ノ位置ヲ守リ道德ヲ重シ思想ノ向上ヲ圖リ親睦和合第一ノ事

一、総テ花ヲ觀ルニハ深甚ノ敬意ヲ拂ヒ、主人又ハ生ケタル人ニ向ヒ挨拶ヲナシ、徐ロニ座ヲ立チ床ノ前ヘ疊一帖ヲ隔テ座シ、両手ヲツキ心靜カニ默禮シ、両手ハ膝ノ上ニ置キ、先ヅ眞副体ノ三光ヨリ花ノ配置方ニ至ルマデ心ヲ留メテ見ルベシ、尤モ近ク寄リテ水際ヲ見ント欲スル時ハ、一應拜見ノ挨拶ヲナシ、靜カニ膝行シテ能ク觀察ノ後又元ノ座ニ歸リ、前ノ如ク默禮シテ座ヲ立チ本席ニツキ生ケタル人或ハ主人ニ向ヒ、禮言ヲ述ベ聊カモ粗漏ノ振舞アルベカラズ。

一、會席。連花ノ際ハ勿論其ノ他ノ時ト雖モ、自分ノ花ヲ讚メ、他ノ花ヲ批評シ又ハ人ノ善惡ヲ語ル等ノ事ハ最も戒ムベク只風流雅談アルベシ。然レドモ花評ノ依頼アル時ハ懇ロニ注意スベキナリ。

一、生花ハ禮儀ノ要法衛生ノ樞機ナレバ古キ水、或ハ古キ花等ハ常ニ取リ替ヘ、萬事ニ注意シ清淨ヲ事トスル事一、客來ル時ハ熟未熟ニ拘ラズ床ニ花ヲ生ケ置キテ、敬意ヲ表シ、客ヲシテ愉快ノ感アラシムベシ、然レドモ枯レタル花或ハ亂レタル花ヲ置クハ却テ不敬ナルモノナレバ慎ムベキ事ナリ

一、右ノ心得ハ巧拙ヲ問ハズ常ニ留意シテ忘却スルコトナク、斯道研究ノ旨意ニ悖ラザランコトヲ期シ、終身棄ツルベカラサルモノナリ。

(花ノ枝折天之巻終リ)

大正十一年三月廿日修正印刷  
大正十一年四月一日修正發行

(第七版)



大日本總華督

著作者

聽水庵春翁

廣島縣雙三郡和田村向江田參拾壹番屋敷

發行者

木原春蕙

廣島縣雙三郡吉舍町貳百四拾五番地

印刷所

佐々木印刷所

廣島縣雙三郡吉舍町貳百七番地ノ壹

印刷者

後藤次郎一

花之枝折天卷  
花之枝折地卷

(冊二全)





